

# 濟生

## SAISEI

THE NEWSLETTER of  
Social Welfare Organization  
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1135

「NEWSな濟生人」  
精神疾患を持つ人・家族の  
暮らしをトータルに支える



# 1

January 2024

社会福祉法人 恩賜財団 濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>



# 濟生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂  
Shigeru Sumitani



184

## 歴史からの警告

毎年1月号は、今年の私の予測を述べてきた。これまで大きな方向では予測は外れなかった。同様な予測を日刊紙や経済誌も発表するが、的中率は、そんなに劣らない。歴史の流れをマクロ、メゾ（中間的視点）、ミクロの3面から考えると、明日の方向が自然と見える。信頼できる

データは、過去に私たちが経験したことだからだ。昨年は、「ウイズコロナの時代ではこれまで経験したことのない難題に直面する年になる」と述べた。主なものは、日常的に必要な物やサービスは円滑に入手できないこと、社会の不正・不公平感が拡大すること、

身近な犯罪が増加することの3点を挙げた。

昨年は、そのとおりに推移したが、今年の予測は、比較的簡単だ。世界の歴史は、昨年が潮目だった。今年は、その潮流に乗って昨年に生じたこれらの事象が深まっていくからだ。昨年、第1に掲げた必要な物やサービスが入手できない状況は、今年は一層深刻化する。一部の分野では供給が途絶え、社会的機能がマヒする。

これまでスーパーに行けば必要な品は、必ず棚に並んでいた。これからは品切れ商品が多くなる。売っている目も飛び出る。価格になっている。

大型量販店に行つて家電を注文しても、3カ月待つことが珍しくなくなる。日常使うバスの運行数は大幅に減少する。タクシーも少なくなる。宅配の配達日数は長くなる。

この原因は、国際政治、経済社会等の多岐にわたる構造変化にあるから、弥縫的な手段では解決しない。

民主主義国家と専制主義国家の激しい対立から物資の輸出が、戦略的に幅広く禁止される。

国内では人手不足がずっと継続する。生産年齢人口は減少する。経済構造では情報産業が、さらに拡大し、多くの労働力を必要とする。本来省力化に貢献する産業なのに、逆に人手不足を招く。料理、買い物、掃除、介護、育児等の家事労働の外部化が、飛躍的に拡大する。関連産業は増加するが、いずれも労働集約的である。

国民意識の変化が大きい。若者は、仕事よりも私的な生活を重視する。収入は少なくとも労働時間はほどほど、というライフスタイルが広がっている。

医療や介護・福祉の提供体制も同様である。4月から実施される医師の働き方改革は、他の業種よりもっと深刻化させる。医療や介護サービスをすぐに受けられない人が増加する。

これらの解決は、基本的には国の政治に委ねられるが、制約された状況下、濟生会は、患者や利用者のニーズに適切に対応していくために、懸命に努力する1年となる。

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するとき用いた。濟生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適切に対応していかなければならない。

社会福祉法人 SAISEIKAI YOKOHAMASHI TOBU HOSPITAL  
医療 財団 濟生会横浜市東部病院

## 懸命に生きる、 一人ひとりの 小さな命を 守り続けるために



クラウドファンディングにて  
ご寄付を募集中！

いただくご寄付の使い道 | NICUで使用している新生児集中治療人工呼吸器の購入

濟生会横浜市東部病院へのご寄付は、税額控除適用法人へのご寄付となり税制優遇の対象になります。詳細はWEBサイト等をご覧ください。

開始 2023 11/9(木) 9:00 終了 2024 1/31(水) 23:00 目標金額 2,000万円

赤ちゃんの命を支えるNICU。  
新生児用人工呼吸器の更新へのご寄付を



濟生会横浜市東部病院は、地域周産期母子医療センターの1つとしてNICU（新生児特定集中治療室）6床を備えています。呼吸や循環状態がままならず、全身管理が必要な新生児の人工呼吸管理や輸液管理といった高度な治療を24時間体制で提供しており、赤ちゃんの命を守るために、地域で重要な役割を担っています。

しかしながら、開院から15年が経過した現在、さまざまな医療機器の更新が必要なタイミングを迎えています。新生児用の人工呼吸器も、次の15年に医療体制をつないでいくために買い替えが必要であり、このたびクラウドファンディングによる寄付募集を開始することとなりました。

助けられるはずの小さな命を守っていくために、どうかクラウドファンディングを通じて、皆さまのあたたかなご寄付をよろしくお願いいたします。

クラウドファンディングとは

インターネットを通して活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。All in というルールで、目標金額の達成の有無にかかわらずご寄付を受け取ります。

ご寄付・詳細は  
下記のサイトをご覧ください

<https://readyfor.jp/projects/tobu-saiseikai>

濟生会横浜市東部病院 クラウドファンディング



READY FOR



C O N T E N T S

NEWSな  
濟生人

關 紳一さん

濟生会唯一の精神科単科病院  
〈埼玉〉鴻巣病院 院長

06

## 濟生会交差点

《がん患者への音楽療法》緩和ケア病棟に常駐する音楽療法士。“音楽の力”で治療の不安を和らげる／《フットケアワーキング》糖尿病患者さんの足を守る！フットケア啓発と学びの場づくり／《訪問看護師による遺族ケア》ご遺族に寄り添い、悲しみを乗り越える過程を支える

10

### 巻頭コラム 濟生会の不易流行論

歴史からの警告 理事長 炭谷 茂

03

### ソーシャルインクルージョン

17

### カレンダーなでしこ写真 入選のことば

20

### 第6回 濟生会リハビリテーション研究会

22

### 1月のたよりが聞こえる——羽根つき

表紙のことば 久保田眞由美

05

### この人 哀川 翔

24

### 口福につぼん 吉井省一

26

### だれでもかんたん てづくりおもちゃ

いまいみさ

28

### TOPICS

30

### 載々、大雑報

68



## 羽根つき

追羽根は二人が羽子板で羽根つき合って勝負する。揚羽根というのもあって、こちらは一人で羽根を打ち揚げて回数を競う。今では見かけなくなつたけれど、子がたくさん亡くなる時代に子の成長を願う正月の風物詩だった。

羽根つきが登場する最も古い文献は室町時代の「看聞日記」といわれる。伏見宮貞成親王によるもので、正月五日に宮中で「こきの子勝負を

を揚げ独楽を回す1番に続き、2番では秘をつき、追羽根ついて遊ぶのだ。

隅田川の「花」や「荒城の月」で知られる作曲家・滝廉太郎の作品に、  
「こもういくつねるとの「お正月」がある。シベリウスの交響曲に似ているという曲評は別にして、歌詞では正月が来たら風を揚げ独楽を回す1番に続き、2番では秘をつき、追羽根ついて遊ぶのだ。

「した」と書き残している。こき（胡鬼）とは古い中国でトンボのこと。病原を媒介する蚊を食べるので縁起がよく、4枚の羽で飛ぶ様子から、こきの子は羽根つきの羽根。「こきの子勝負」は男女対抗戦で、負けたほうがお酒をふるまっていたそうだ。

羽根の形状はトンボではなく、ツクバネという木の実にそっくり。黒い実の先に4枚の大きな苞（特殊な葉）が付いていて、熟すとくるくる回りながら落ちていく。これが羽子とも呼ばれ、羽子板はこれに由来する。もつともツクバネは、実が羽根に似ているのでその名が付いたと、逆の説も有力だ。

実際の羽根の先に付いている黒い球は、ツクバネの実ではなくムクロジの種。漢字では無患子と当て、子どもの無病息災を祈るにはうってつけだ。堅くて数珠にも使われている。ちなみに貞成親王は皇族である伏見宮家の第3代当主。濟生会初代総裁の貞愛親王は第22代に当たる。総裁就任の際、社会の片隅の孤児を思う歌を本会に寄せ、それが撫子の紋章につながった。子どもの寿命は延びたが、こんな少子化が到来すると予想できただろうか。

### 表紙のことば

### お正月の遊びで明るい年を

表紙イラスト 久保田眞由美 Mayumi Kubota

「カーン、カーン」。羽根つきの音を聞いたことがありますか？ 羽根の、黒い重りに使われている植物は漢字で「無患子」と書くそうです。吉を招くと言われる音、顔に墨を塗られてはしゃぐ声。「福笑い」「凧上げ」あ

ちこちで子供の笑い声が響く。「明るい年になるように」。お正月の遊びにはそんな願いが込められていたように思います。羽根つきは見なくなりましたが、今年も笑顔いっぱい的一年になりますように。



題字協力：石飛博光

アートディレクション：  
OVO INTERNATIONAL



# 済生会唯一の精神科単科病院

ストレス社会を背景に心の病を抱える人は年々増加しています。2022年の国内自殺者数は2万1881人で前年比4.2%増加しました(厚生省)。鴻巣病院は済生会で唯一の精神科単科病院として、約70年にわたり

精神疾患を持つ人やその家族を支え、近年はメンタルクリニックや生活訓練施設なども運営しています。關神一院長に精神科病院が地域医療に果たす役割を伺いました。  
(加須病院 済生記者 蓬田絵里子)

## 關神一さん

〈埼玉〉鴻巣病院 院長



外来待合の喫茶コーナーで。左はインタビューの蓬田さん

## 精神疾患を持つ人・家族の暮らしをサポートに支える

關 戦後、欧米から精神衛生に関する最新の情報が入ってくるようになり、1950年に精神衛生法が制定。自宅監置が廃止さ

れ、ようやく精神障害者に適切な医療・保健の機会が与えられるようになりました。  
蓬田 それを機に精神科病院の整備が進められるようになったのですか。

關 当院は精神衛生法制定と同じ年に、川口済生病院(現川口総合病院)の分院として開設しました。結核患者の診療が中心でしたが、統合失調症やアルコール依存症を抱える人も少なくなく、1956年に精神科(18床)を併設したのが始まりです。  
蓬田 精神科医療の大きな変遷の中で鴻巣病院が誕生したのですか。

關 その後、(栃木)報徳会宇都宮病院で職員(1983年)の暴行により患者が死亡した「宇都宮病院事件」(1983年)をきっかけに、日本の精神科病院の構造的な問題が浮き彫りになり、1987年の精神保健法制定につながりました。  
蓬田 何が変わったのでしょうか。

蓬田 加須病院と鴻巣病院は車で20分ほどの距離です。救急医療や臨床研修でお互いの交流はありますが、一般の人にとって精神科病院はあまりなじみがないと思います。どのような役割を担っているのですか。  
關 今日よく来ていただきました。当院の話をする前に精神科医療の歴史から話してもよろしいでしょうか。  
蓬田 よろしくお願います。  
關 わが国には精神疾患を持った人は家族が外聞を憚って自宅の座敷に閉じ込められたという暗い歴史があります。1900年に施行された精神病者監置法は、そうした自宅での監禁(私宅監置)を一定の要件のもとに合法化するものでした。  
蓬田 監禁することを国が法律で定めていたとは……。  
關 日本の精神科医療の礎を築いた元東京帝国大学教授の呉秀三氏は、当時の状況を著書の中で「我が国十何万の精神病者は実にこの病を受けたるの不幸のほかに、この国に生まれたるの不幸を重ねるものというべし」と指摘しています。  
蓬田 精神疾患の人は二重の苦しみを抱えていたということですね。



様々な精神科疾患の患者さんに対応するため職員間のコミュニケーションは欠かせない

關 精神障害者の医療と保護を行なうだけでなく、その人権擁護、社会復帰の促進がうたわれています。1995年制定の精神保健福祉法では、精神障害者の自立と社会経済活動への参加の促進が目的に加えられました。同法はその後約5年ごとに見直しが行なわれています。  
蓬田 入院中心の精神科医療から、地域での生活を総合的に支援するかたちが変わってきたのですか。今に至って、日本の精神科医療は世界レベルに達しているのでしょうか。  
關 2006年に国連で採択された障害者権利条約を、日本は遅れて2014年に批准しました。しかし、精神科病院の医療保護入院、隔離拘束などの行動制限の是正について勧告を受けており、課題は多いです。

### 統合失調症、うつ病中心にさまざまな疾患に対応

蓬田 改めて鴻巣病院の診療体制を教えてください。  
關 当院は外来(精神科・内科)、精神科療養病棟、認知症治療病棟、依存症病棟、精神科救急病棟、精神科デイケア、作業療



アルコールリハビリテーションプログラム。心と体を治療して健康な体を取り戻す



平成24年4月の院長就任後も変わらず外来診療で患者さんと向き合っている

※写真撮影時のみマスクを外しています



# 精神疾患があっても 地域で安心して 生活ができる支援体制を

蓬田 精神科救急医療施設には病院群輪番型と常時対応型があり、当



精神科デイケア「あすなる会」は月曜～金曜に実施。市民体育館で活動するときもある



鴻巣病院グループが住民を招いて一緒に楽しむ地域祭り



精神看護実習生の受け入れも鴻巣病院の重要な役割

法科、地域連携科、アウトリーチ事業などから成っています。  
蓬田 どのような疾患を診ることが多いですか。  
關 統合失調症、うつ病が中心で、高齢者人口の増加に伴って認知症も増えています。ほかには、双極性障害（躁うつ病）、自閉症、発達障害、摂食障害、パーソナリティ障害、依存症などさまざまです。

蓬田 ささまざまな疾患、状態があるんですね。

關 最も多いのは統合失調症で、当院の入院患者の約4〜5割を占めます。薬物療法を中心にリハビリテーションなどを組み合わせて症状をコントロールしますが、薬で改善するのは3分の1程度。治療が順調でも再発を繰り返すうちに障害が残る難しい疾患です。

蓬田 うつ病の患者さんも多いようですね。  
關 うつ病は一般の内科クリニックでも診療します。実際、患者さんは頭痛や食欲不振などの身体症状をきっかけに受診し

重症化すると思います。

## 精神疾患のある人を 地域で支援していくために

蓬田 先ほど鴻巣病院の精神科デイケア「あすなる会」を見学しました。患者さんが楽しそうに活動していました。

關 他施設に通院している患者さんも利用しており、1日の利用者は30人を超えます。軽スポーツ、手工芸、カラオケなどさまざまなプログラムがあります。患者さんは活動を通して自分自身を知り、ほかの患者さんと関わりながら社会復帰・参加のきっかけをつかみます。

蓬田 ここならではのプログラムは？  
關 生活習慣を見直す勉強会のAAT（あすなるアティックシントーク）、AAW（同ワーク）は、依存症を対象にしたプログラムですが、統合失調症や気分障害などの人も参加でき、当施設の特徴となっています。

蓬田 精神疾患のある人を地域で支援していくためには何が重要ですか。  
關 ポイントの一つは精神科救急体制です。患者さんの急変や重症化にすぐに対応できる仕組みが必要です。精神科救急医療施設には病院群輪番型と常時対応型があり、当



關院長は昨年10月、精神科への長年の功績に対し厚労大臣表彰を受けた

て診断されるケースが多いようです。しかし、抗うつ薬で思うような治療効果が得られない場合や、自殺念慮のある患者さんは当院に紹介されてきます。

蓬田 精神科の敷居が高いというイメージは薄れてきているような気がします。  
關 私が埼玉県に来た1989年当時、県内の精神科診療所は5、6施設でしたが、今はメンタルクリニックなどができ、約90施設まで増えました。

蓬田 そんなにも！  
關 こうして診療のすそ野が広がったことで、受診しやすくなり、患者数も増えていくのだと思います。一方、依存症の場合は家族や仕事などを失い、日常が壊れた状態で受診するケースが多いので、体制の整った施設が必要です。  
蓬田 内科クリニック



院は常時対応型救急施設として稼働しています。特に公的病院や公立病院にその機能が求められていると思います。  
蓬田 地域生活が難しくなった場合の後ろだてがあるのは安心です。

關 救急搬送後はできるだけ短期間の入院でケアし、退院後は訪問診療・訪問看護・福祉施設などと連携して地域で支援していくシステムを想定しています。先進的に動き始めているACT（包括型地域生活支援プログラム）は少しずつ全国が増えてはきていますが、診療報酬上の手当などが不十分のため、まだまだなのが現状です。現状では訪問看護や訪問医療で支えていくことになりそうです。

蓬田 具体的にはどういったものでしょう。  
關 ACTは重症の精神障害を持った人を対象に、訪問中心の多職種チームが24時間365日体制で個々のニーズに合わせたサービスを提供します。

蓬田 きめ細かな支援体制は、インクルーシブな社会をつくるために必要です。  
【取材を終えて】



取材前は精神科病院や精神疾患に少しネガティブなイメージがありました。それは自分が「見た」「調べた」ではなく、古い考えや間違った伝わり方などによる偏見でした。取材を通してイメージにとらわれず、

自分自身で調べて知る重要さを改めて実感しました。この記事を通してより多くの方に鴻巣病院の取り組みを知っていただきたいです。

（蓬田絵里子）



①②③ 院内に創設されて今年で27年目を迎える緩和ケア病棟。福井県済生会病院はがん患者の家族へのサポート、がんを抱えてどう生きるかを考える「がん哲学外来」、就労支援などの支援を行なうなど、患者さんの不安や悩みに向きあっている



# 済生会 交差点

SAISEIKAI・JUNCTION

済生会にはたくさんの道があります。  
道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。  
そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。  
「笑顔」です。



患者さんの状態を確認しながら音楽療法のプログラムを進行。この日は本人の好きな曲を題材に、歌ったり聴いたりしながら回想したことを語ってもらった

実施内容は患者さんによってさまざまですが、「家族や地域のために、地元への思い」をテーマにした歌を作りたい」という患者さんと共同作業で歌を制作したことは特に印象に残っています。他の患者さんやご家族に披露し、とても喜んでいただけました。

音楽療法実施後は、電子カルテに実施記録を記入し、緩和ケアに携わる多職種と情報を共有します。さらに、病棟や緩和ケアチームで行なうカンファレンスの場で、ケアの方向性を合わせるために多職種で話し合うこともあります。

る「フレイルが心配される患者さんは「日中の活動性を向上させ楽しさを持つ」というように、それぞれの状況に応じて目的を設定。そして患者さんの希望や状態をみながら「音楽を聴く」「歌う・楽器を演奏する」「作曲・作詞をする」「音楽に合わせて身体運動をする」などの活動を組み合わせ、具体的な実施内容を計画していきます。



「懐かしい。昔カラオケでよく歌ったよ」と回想する患者さん。実施中も患者さんの表情や言動を観察し、心地よい状態かどうかを確認

緩和ケア病棟内の開放的なホール。木のぬくもりを感じさせる癒やしの環境で演奏会や作品展などが開かれることも（感染予防のため現在は中止）

**がん患者への音楽療法**

福井県済生会病院  
音楽療法士 公認心理師  
柴田麻美

## 緩和ケア病棟に 常駐する 音楽療法士

“音楽の力”で治療の不安を和らげる

当院は1996年に緩和ケアの取り組みを開始し、98年に福井県初の緩和ケア病棟「愛の家」を開設。2005年には緩和ケアチームを立ち上げるなど、がん患者さんやご家族がより良い生活を送るための支援体制を早期から整えてきました。



筆者

緩和ケア病棟が行なうケアの一つに、音楽を利用した心のケア「音楽療法」があります。感情を落ち着かせる、他者とながらツールになるなど音楽の持つ心理的・社会的・生理的な働きをうまく使うことで患者さんが不安や苦痛に思っている個々の問題を改善し、生活の質の向上を促します。

### 患者さんごとに 内容をカスタマイズ

音楽療法の対象となるのは一般病棟や緩和ケア病棟に入院中または外来通院中で、主治医の許可があり、実施を希望するがん患者さんです。現在は月約10人受けています。患者さん個々の状態やペースに合わせて1回30分～1時間、週1～3回程度行ないます。

実施にあたっては、まず対象患者さんと面談を行ない、現在の気持ちや希望する活動内容、音楽経験や好みなどについて聞き取ります。また、カルテの内容や主治医・看護師の話をもとに、患者さんの現状を全人的苦痛の観点からアセスメントし、支援のポイントを明確化します。全人的苦痛とは、身体的苦痛のほか精神的苦痛（不安や恐れ、いら立ちなど）、社会的苦痛（経済的な問題、人間関係など）、霊的苦痛（自分の存在意義への悩み、死への恐怖など）という痛み、死への恐れなど、相互に影響し合うという考え方です。

アセスメント結果を踏まえ、例えば不安や落ち込みがみられる患者さんは「気分を改善す



# フットケア ワーキング

(群馬)  
前橋病院  
糖尿病看護認定看護師  
高草木由里

## 患者さん自身の持つ力を 音楽の力で引き出す

病気の治療・療養をする際には、患者さん自身が気持ちを整え、その人本来の力を発揮でき

るような状態を保つことがとても大切です。不安や気がかりなど、多くの患者さんが抱える辛い気持ちを少しでも和らげるために、音楽の力を利用して心理面のサポートを行なう音楽療法

は有効な一つの方法として提案できます。これからも実施を続けていきたいと考えています。時代とともに患者さんが好む音楽のジャンルや聴き方などが多様になっているため、今後は

## 糖尿病患者さんの足を守る！ フットケア啓発と学びの場づくり

は患者さん自身も医療者も「フットケア」という言葉

さえ知らないうち

ことは、その重要性を再確認させるものでした。しかし、当時

状態がありました。そこでフットケアの啓発も含

糖尿病が原因で引き起こされる合併症（糖尿病足病変）により、足の切断を余儀なくされる患者さんが多く存在します。足病変の重症化を予防するにはフットケアが有効で、2008



筆者

年度診療報酬改定でフットケアが「糖尿病合併症管理料算定」として算定できるようになった

### 内分泌外来を受診された患者さんへ

血糖値が高い糖尿病の方は足は痒つきやすく、感染症にかかりやすくなります。足が乾いておくと糖尿病性癬（かじ）などの合併症を引き起こすことがあります。

足の感染症のなかでも、水虫に感染してなくても、水虫に似た症状を受け、糖尿病の方は、日頃から「フットケア」と呼ばれるフットケアの指針に基づいて、水虫に関するアンケートをしたいと考えています。下記の家庭を良くお読みください。

#### 水虫についてのアンケート

- |                        |                             |                              |
|------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| ① 水虫（足白癬）という病名を知っている   | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ② 足の指と指の間の皮がむけている      | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ③ 足の裏に水泡（水ぶくれ）ができています  | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ④ 足の裏やかかとと角質が厚くざらざらする  | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ⑤ ②～④の症状は、夏に悪くなり冬におさまる | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ⑥ 足の爪が白く濁っている          | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ⑦ 足の爪が黄色く変色している        | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ⑧ 足の爪が厚くなっている          | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ⑨ 足の爪がもろくぼろぼろになっている    | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ⑩ 水虫の治療を途中で中断したことがある   | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ⑪ 家族の中に水虫の人がいる         | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ⑫ トイレやお風呂のマットを共有している   | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ⑬ 家のスリッパを共有している        | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ⑭ 家族で靴（サンダル）を共有している    | <input type="checkbox"/> はい | <input type="checkbox"/> いいえ |
| ⑮ 質問のある方はご自由にお書き下さい    |                             |                              |

糖尿病患者さんは足が傷つくことで合併症を引き起こしやすく、日頃からの手入れが重要。まずは自身の足を見てもらうためアンケートを実施した

そうして活動を進めていく中、フットケアを受けた外来患者さんや病棟看護師からの「入院中でもフットケアを」との要望が増えました。しかし、人員不足の状況から断らざるを得ず、皮膚トラブルを起こした患者さんに対応する皮膚排泄ケア認定看護師に相談すると、同様に通常業務を圧迫



フットケアワーキングの手技練習。トレーニング用の足モデル「フッティークン」を使い、爪切りやタコの削り方、保湿剤塗布などの技術を学ぶ



手技練習の後には実際にメンバー同士の足でフットケアの練習を重ね、患者さんへの実施を目指す



当院に隣接する老健あずま荘を訪問し、フットケアを希望する入所者さん（利用者さん）へケアを提供

習、トレーニング用のフットケアモデルやメンバー同士の足を使った実践練習。そして1年かけてケア技術を習得した看護師がコアメンバーの承認を経て、入院患者さんへのケアを行います。これまではすべてのフットケアの依頼を筆者一人で受けていましたが、ワーキングの活動を通して病棟看護師たちも爪切りなどのケ

アを担当できるようになり、負担が軽減しました。また、外来でフットケアを行っていた人が隣接のあずま荘に入所することも多く、そのほとんどがフットケアの継続を希望しています。これまでは人員不足のため希望に添えずにいましたが、現在はワーキング活動の一環として定期的に訪問できるようなりました。ケアを受けた人からは「足が楽になりま

するほどフットケアの依頼が多いことが判明。足病変予防を担う糖尿病看護認定看護師と創傷ケアを担う皮膚排泄ケア認定看護師が協働し、患者さんの足を守るための対策を考えることになりました。

### 技術を磨き フットケア実施者を育成

フットケアに関する院内看護師へのアンケートからは「フッ

トケアに興味はあるが技術を磨く場所がなく、患者さんへのケアに自信がない」という声がありました。

この結果をもとに2021年4月、糖尿病看護認定看護師・皮膚排泄ケア認定看護師・糖尿病重症化予防研修を終えた看護師の計6人（コアメンバー）と、各所属から選出された病棟看護師12人で「フットケアワーキング」を結成。「トラブルのない

爪切りをどのスタッフでも提供できる・継続して専門的なケアを提供できる体制づくり」を目指し、活動を始めました。

月1回の活動で行なっているのは、日本糖尿病教育・看護学会編集の教材を使った基礎学



ワーキングメンバーの指導によりフットケア技術を習得した病棟看護師が、リンクナースに患者さんのフットケアをレクチャー



## 訪問看護師による遺族ケア

滋賀県済生会  
訪問看護ステーション  
看護係長  
高阪弘美

### ご遺族に寄り添い悲しみを乗り越える過程を支える

平成6年に開所した当施設は、訪問看護ステーション3カ所・サテライト事務所2カ所・看護小規模多機能型居宅介護事業所1カ所を運営する大規模ステーションとして、地域みなさんが医療や介護が必要な状態になっても安心して住み慣れた場所で過ごせるお手伝いをしています。



筆者

「た歩ける」「見てもらおうと安心」と笑顔が見られます。  
ワーキング活動を広め  
地域のニーズに応えたい  
ワーキングメンバーの活動に

より、病棟看護師間でも足の観察を意識的に行なうなどフットケアが意識付けられ、患者さんの足を守るケア方法の一つとして周知されてきました。  
一方、地域でフットケアを行

なう施設は少ないため、当院へはフットケアのみの紹介患者さんもいます。今後は院内だけでなく地域でのフットケア実施者の育成も進めていければと考えています。

また院内でフットケア枠を増やし、より簡易的にフットケアの紹介が受けられるようなシステムの構築も検討しています。



ぼむの会の運営を行なうグリーンケア委員会メンバー（下段中央が筆者）

「ぼむの会では話せた」  
そうしたご遺族の悲しみや寂しさに寄り添い、悲嘆のプロセスを乗り越えていく手助けをしたいと思い、平成14年に遺族ケアを開始しました。遺族訪問、グリーンカードの送付、そして遺族会開催を活動の3本柱としています。遺族会はPeace Of Mind（心を癒やす）、Pink Of Mind（心のなでしこ）の頭文字をとって

「ぼむ（POM）の会」と命名しました。遺族訪問は、四十九日が過ぎる頃にご遺族に連絡して近況を伺う中で悲嘆の状況を推察し、支援が必要なご遺族に対し行ないます。訪問時のご遺族の状況は、利用者さんのお人柄について話したり、闘病を振り返ったりしてあげたかったことや喪失感を吐き出したり等さまざま。そうした心情に寄り添い時間をもにすることが、ご遺族の悲しみの軽減につながればと思っています。

お彼岸とお盆の時期には、受け持ち看護師からのメッセージを添えてグリーンカードをご遺族に送付。「懐かしく振り返り、エールを送る」という思い

で、一枚一枚作成しています。遺族訪問時やグリーンカード送付の際には「ぼむの会」の案内もしています。「いつまでも

心の傷が癒えない」「寂しさを乗り越えられない自分を責めてしまう」「こんな辛さを他の人にはどうしているのだろうか？」という思いを抱えるご遺族が、ぼむの会に参加するきっかけとなつて

越え方を称賛し合ったりしながら次第に打ち解けていきます。同じ悲しみを持つ者同士で心が通じるのか、「近所の人や兄弟にも話せなかつたけど、ここでは話せたわ」と言われることも。涙あり、笑いありで、故人の思い出の品を紹介し合う会に発展することもあります。

## 遺族会（ぼむの会）のお知らせ

お身内を亡くされてから今日までご家族の方におかれましては、心身共に疲れがたまりましたとお察し致します。自宅での介護ということで、色々なご苦労がございました。しかし、暖かいご家族と大切な時を過ごされ、心安らかに最期を迎えられたのではないのでしょうか。また、私共もその貴重な時間にお付き合ひさせて頂いたことを感謝しております。

日時：令和5年 5/17、7/19、10/18 令和6年 1/17

（全て水曜日です） 14:00～16:00

場所：栗東市訪問看護ステーション会議室（なごやかセンター内）

栗東市安養寺190番地 TEL:077-554-6119

ぼむの会とは・・・

滋賀県済生会訪問看護ステーションをご利用されていた方で、大切なお身内を亡くされた家族の方であればどなたでも参加していただける会です。「あの時は・・・」「一生懸命介護したなあ」「まだ悲しい。辛い」「やっと元気になったよ」「一人で寂しい」・・・様々な思いを自由にお話して頂ける場だと思います

Peace Of Mind（心を癒やす）

Pink Of Mind（心のなでしこ）

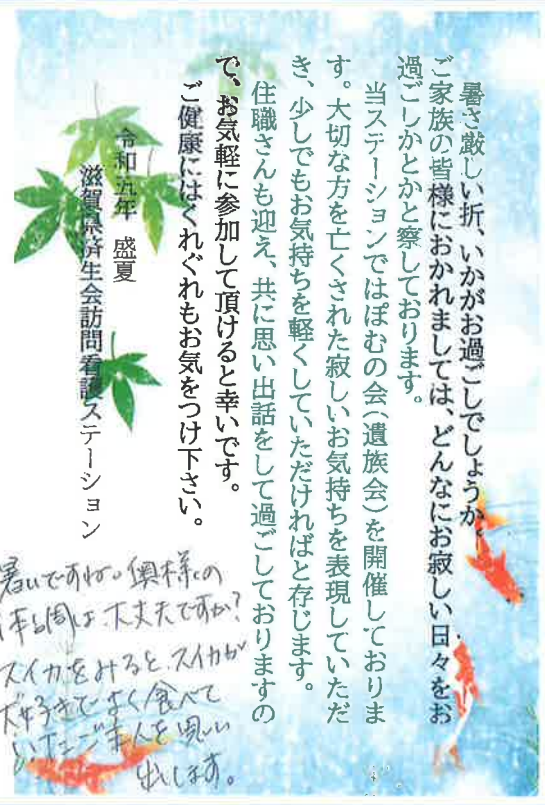
の頭文字を取ってぼむ（POM）の会と名づけました。

ご質問等があればお気軽にどうぞ。コロナの影響でぼむの会を中止させていただくこともございますので参加ご希望の方は事前に連絡をお願い致します。

連絡先：077-549-8555 担当（高阪）

滋賀県済生会訪問看護ステーションサテライト青山 高阪

遺族訪問時にお渡しする「ぼむの会」の案内



受け持ち看護師からのメッセージを添えたグリーンカード。お返事が届くことも

の辛さや寂しさの乗り越え方を

は年4回、グループ内の栗東市訪問看護ステーションの会議室で開催しています。みなさん最初は「何を話したら・・・」と戸惑つていますが、日々の過ごし方について質問をしたり、互いの辛さや寂しさの乗り越え方を

済生会のトップページからアクセス!! <https://www.saiseikai.or.jp>

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」 TEL:096-223-3428  
松山ワークステーション「なでしこ」 TEL:089-916-6959

なでしこファーム



# JKK東京と連携

## 都営住宅で健康セミナー



### 〈東京〉中央病院

12月8日、都営大森東一丁目アパート集会所で「JJK（住宅供給公社）東京と連携した第2回健康セミナー」を開催、19人が参加しました。

当日は「認知症の治療いろいろ」皆さんで昭和を語りいませ

看護師が講演を行いました。講演では昭和時代に関するクイズ出題もあり、皆さん楽しくそうに解答していました。その後、川端奈緒・精神保健福祉士を加えた3人による個別相談会。限られた時間の中で、それぞれが抱える悩みを熱心に相談していました。（済生記者 鈴木香純）



んか？「回想法で活力を」と題し、脳神経内科の足立智英医師と浅水香理・認知症看護認定



### 更生保護活動で 法務大臣感謝状

11月17日、佐賀市文化会館で開かれた「令和5年度佐賀県更生保護事業功労者顕彰式典」で、当院が民間協力者として更生保護事業功労者に選ばれました。式典には千布裕副院長が出席し、小泉龍司法務大臣からの感謝状が贈呈されました。

同式典で当院はこれまで、九州地方更生保護委員会委員長感謝状（令和3年）と佐賀保護観察所長感謝状（平成24年）を受賞しています。

なでしこプランに基づき、当院では生活保護施設での健康相談会や保護観察対象者の軽作業を通じた声かけ活動、刑余者の介護実践指導などの支援を続けてきました。これらの活動が認められ、今回の受賞となりました。（済生記者 相島蘭香）

## ソーシャルインクルージョン

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を策定しました。無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。だれも排除されないまちづくりを目指し、全支部・施設が1696事業を展開します。



遺族ケアの活動の一つ、「ぼむの会」

ぼむの会の開始時から参加し見守ってくださっているのが、支部OGの佐藤敦子さんと京都蹴上・安養寺住職の村上純一さん。佐藤さん自身も死別経験があり、慣れない参加者から話を引き出してください。村上さんも参加者の話を親身になって聞き、時にはアドバイスや仏教のお話も。二人と時間をともにしたみなさんの帰りの表情は、緊張が解け、少し背筋が伸びたようにも見えます。「この

方、1〜2回で終了する方など、スタイルはそれぞれ。ご遺族の心のどこかに、この会の存在をどめてもらっていると感じています。

### 遺族の心に届くケアを

会をしていてよかった」と感じる瞬間です。遺族訪問やぼむの会の後には、ご遺族の思いを事業所内で共有

### 参加にあたってのお願い

- ・ 善意を押し付けないようにしましょう。
- ・ 比較しないようにしましょう。
- ・ 評価しないようにしましょう。
- ・ 非難しないようにしましょう。
- ・ 安易な励ましや慰めを避けましょう。
- ・ 早く立ち直るようプレッシャーをかけないよう心がけましょう。
- ・ 会で知った人の話は口外しないようにしましょう。

会開催時に参加者へお渡りする「参加にあたってのお願い」



支部OGの佐藤敦子さん（左）と京都蹴上・安養寺住職の村上純一さん（中央）、筆者

グリーンケア委員会の委員長（筆者）がぼむの会を進行。それぞれの自己紹介、亡くなった方の紹介から始める。10月18日開催のぼむの会には5人が参加。「今だから」と話して下さるご遺族の思いは、看護師にとって貴重



## 「生活困窮者を支援しよう」 支援従事者セミナー4年ぶり対面で

富山病院

地域で生活困窮者支援に関わっている人々を対象としたセミナーを11月15日、4年ぶりに当院で対面開催しました。

当日は、当院での生活困窮者支援の取り組み紹介と事例発表を行った後、当院医師・看護師・MSWを交えてグループワークを行いました。

院外からの参加者は33人。ケアマネジャー、保健師、看護師、社会福祉士など多職種が集まり、生活困窮者支援への関心の高さがうかがわれました。

たくさんさんの質問や要望などが寄せられる一方で、無料低額診療事業やなど、当院の活動に期待



する声も多くあがりました。  
(医療ソーシャルワーカー  
中川妙子)

12月5日、当苑の長谷川吉則苑長はミネラルウォーター19ケース・計456本を大阪市北区社会福祉協議会へ寄贈しました。

なでしこプランの一環として、中津病院では生活困窮者支援団体への食品・日用品の寄贈を行なう「くらし支え愛」活動を実施しています。

当苑は特養として災害備蓄食品を常時管理しており、賞味期限が近づいた食品の有効利用も兼



ねて「くらし支え愛」活動に参加。  
実際に社会的支援活動を行なうことで、福祉施設としての地域貢献意識を再確認する機会にもなりました。  
(生活相談員 浅田桂造)

## ミネラルウォーター456本 を寄贈

〈大阪〉中津特養喜久寿苑

食事内容や巻き爪の対応などそれぞれの悩みを相談していました。

病院に縁遠い若年層、病院が嫌いで何年も受診していない人など、普段は関わる機会がない人から「糖尿病について

考えるいい機会になった」といった言葉をいただきました。  
(医療社会事業室 田中絵美)

山口総合病院



## 地域包括支援センターと共同で 糖尿病のイベント

ソーシャルインクルージョンの取り組みとして、当院では

当院からは糖尿病・腎対策チームの看護師4人、管理栄養士1人、MSW1人が参加。血糖・血圧測定やフットケアの相談、栄養相談、リーフレットの配布を行ないました。35人が来場し、

地域ニーズを発見しやすい環境づくりのため、に他機関との連携強化を目標に掲げています。

その一環で11月21日、山口市鴻南地域包括支援セ



## 求人応募は 更生したい気持ちの現れ

熊本県地域生活定着支援センター

11月7日、当センターで連絡協議会を開催し、刑余者等支援に当たる24機関から43人（うち11人は当センター職員）が参加しました。

今回は特別講師として、協力雇用主の株式会社永瀬パーツの永瀬義剛社長が講演。永瀬氏は保護司としても刑余者の社会復帰を支援しています。

講演では実際に当センターと連携したケースを交えてお話ししていただき、学ぶところが多くありました。特に「どのような犯罪をしたのかはあまり聞かない。求人に応募してくれたということからは、更生したいという気持ちの現れだと思ってる」という言葉が印象に残りました。

(相談員 西田悠香)



## 地域共生社会実現に向けて 小樽市と包括連携協定

北海道済生会

北海道済生会は12月6日、小樽市役所で同市との「地域共生社会の実現に関する包括連携協定」を締結しました。

調印後の会見で迫俊哉市長は「これまでさまざまな部分でご協力いただいているが、より幅広い分野で連携を強化していきたい」と述べました。

これを受けて近藤真章支部長は「小樽市とより連携を密にし、すべての市民が自分らしく暮らせる地域共生社会を実現していきたい」と挨拶しました。

協定締結後の懇談会には当会の櫛引久丸常務理事も参加。重層的支援体制整備事業について



意見交換を行なったほか、発達支援事業所きつずけらすの子どもが描いたご当地フォントを紹介しました。迫市長からは「ふるさと納税の返礼品として採用を検討したい」とのありがたいお話がありました。  
(ソーシャルインクルージョン推進室 土合浩大)





2024年  
下

CALENDAR ★ なでしこ写真

入選 のことば

2024年  
上

済生会カレンダーのなでしこ写真は2年に1回募集しています。2024年のカレンダー写真は23年5～9月に募集。35件の応募の中から〈大阪〉軽費老人ホームケアハウスつつじ荘の相談員・安達麻由子さん(上期)と〈岡山〉吉備病院の済生記者・難波美紀さん(下期)の作品が選ばれました。



難波美紀さん

このなでしこ写真は「病院駐車場の花壇をナデシコの花でいっぱい咲かせ、病院を訪れた方の心を癒やしたい」という企画で、難波洋一郎院長をはじめ職員一同で10月に植えました。寒い冬を乗り越え4月に満開となり、病院の目の前の国道180号を走る車、それに並行するJR吉備線(桃太郎線)の列車内からも満開のナデシコがよく見えました。



〈岡山〉吉備病院 済生記者 難波美紀

★★★★ナデシコの絨毯

ました。その中でも花が重なり合い「ナデシコの絨毯」のように見えた写真がこの一枚です。職員が心を一つにして植えたナデシコの花……。みんなの気持ちが伝わってきます。全国の皆様に吉備病院のナデシコの花をお披露目できたことに感謝！感謝の気持ちでいっぱいです。

〈大阪〉軽費老人ホームケアハウスつつじ荘 相談員 安達麻由子  
この度は済生会カレンダーの写真に選出していただき、本当にありがとうございます。本当に安住さんの生活空間を華やかに彩るなでしこカレンダーの写真。入職して28年目になりましたが、「定年までに一度は自分の写真でカレンダーを飾ってみたい！」そんな私の夢に「ストロベリーパフェ」という品種の鉢植えを、大阪・障害者支援施設ふくろうの杜・町原誠治施設長がプレゼントしてくれました。



町原誠治さん(左)と安達麻由子さん

アイドルの写真撮影するかの様に毎日「美人さんやねえ」などと声を掛けながらシヤッターを切つて生まれたのがアイドルの写真撮影するかの様に毎日「美人さんやねえ」などと声を掛けながらシヤッターを切つて生まれたのがアイドルの写

この一枚です。我が子のようななでしこの写真で皆様の毎日にも華やかさや彩りを添えることができるならば、こんなにうれしいことはありません。

ナデシコの花言葉のように「純粋な愛」をもって職務にあたり、済生会というブランドをますますステキなものにしていくように頑張ります。

自分の写真で  
カレンダーを飾りたい！





塚田誉氏

『道のドコ行く?』  
旅の途中で  
元テレビ金沢アナウンサー  
塚田 誉

(※繰り返し)  
一人ぼっちの夜

ギターが趣味の塚田氏、リハビリ中も病院スタッフを前にギターを弾いていた

平野友明氏



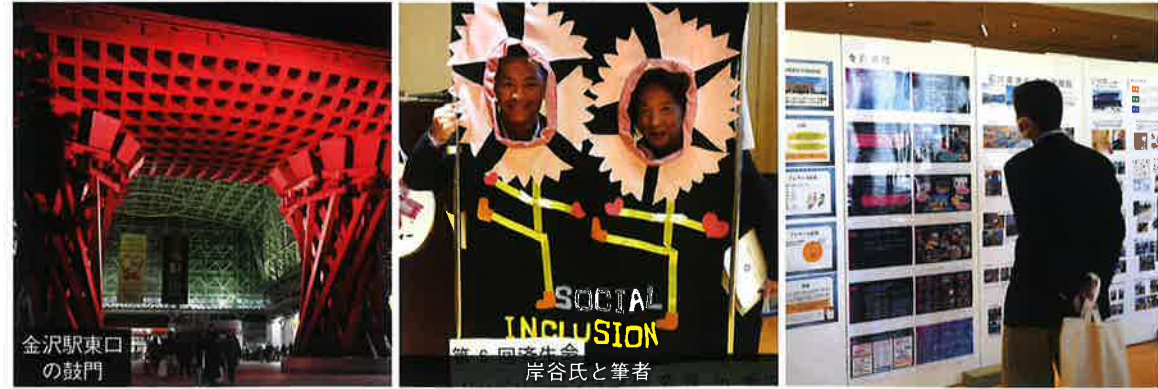
岸谷氏



ポスター展示は加須、金沢、高岡、明和、和歌山の5病院



医療や福祉関係の展示企業も参加した



金沢駅東口 舟の鼓門

岸谷氏と筆者

前述の認知症患者への看護のように、入院前の生活スタイルを調査し患者さんの心理を理解

する……。『リハビリテーションこそソーシャルインクルージョン』という思いで医療従事者

が日々患者さんに向き合っていた。ことを改めて感じた取材でした。(本部広報室 河内淳史)



第6回研究会を支えた石川県済生会スタッフ

# 第6回済生会リハビリテーション研究会

専門的活動グループ取材

## リハビリテーションこそソーシャルインクルージョン

済生会グループでリハビリテーションの質の向上に取り組み「済生会リハビリテーション研究会」の第6回大会が11月25日に(石川)金沢東急ホテルで開かれ、医師・看護師・セラピストなど106人が参加しました。

大会長の荒木勉・金沢病院院長は「コロナ禍で交流が希薄となった今こそリハビリテーションを通じて誰もがいきいきと生活できる社会にしていきたい」と挨拶しました。

講演は元テレビ金沢のアナウンサー・塚田誉氏が交通事故にあり手術とリハビリを経験、「けがや障害があっても人と人が伝えあい共感することが大切」と語りました。

シンポジウムでは金沢病院リハビリテーション部長の岸谷



次回担当の野々村・守山市民病院院長

都氏が座長を務め、頸椎損傷で両手足にまひがある平野友明氏が介助犬と暮らす日々を語りました。その後、中井かおり氏(富山・高岡病院)、板倉史晃氏(福井県済生会病院)、山本愛佳氏(石川・金沢訪問看護ステーション)、髭内紀幸氏(北海道・小樽病院)が登場、各施設の取り組みを報告しました。

一般演題は三つの会場に分かれて進行了ました。(三重)明和病院の田米美里看護師長と越川由美子看護部長は、妄想など



荒木勉院長

「リハビリテーションこそソーシャルインクルージョンの実現を目指して今、リハビリテーションにできること」。講演1、シンポジウム1、一般演題42、ポスター展示5の合計49題の発表がありました。



明和病院の田米美里看護師長(右)と越川由美子看護部長

田米さんは「患者さんが入院前、自宅で行っていた洗濯物をたたむという時間を意識した動作を一緒に行なったところ、患者さんの拒否行動がなくなりリハビリに取り組みやすくなりました。」

の兆候が現れるBPSDを発症した認知症患者の看護を報告。入院中にコロナ陽性でやむなく個室管理となったことで精神が安定し、リハビリに取り組みやすくなりました。





衣装協力: Twins & Co.

あいかわ・しょう 1961年生まれ、徳島県出身。84年、一世風靡セピアの一員として「前略、道の上より」でレコードデビュー。88年から本格的に俳優デビュー。TVドラマ「とんぼ」で一躍、脚光を浴びる。90年、映画『獅子王たちの夏』の主役に抜擢され、アウトローを力演、その後Vシネマなどに数多く出演し「Vシネマの帝王」と呼ばれる。2004年の映画『ゼブラーマン』で主演作品100本目の快挙。唯一無二の存在感を放ち、映画、ドラマなどで幅広く活躍中。近年の出演作に映画『春に散る』(23年)、連続テレビ小説『舞い上がれ!』(22~23年)ほか。

Text: みやじまなおみ  
Photos: 安友康博

Hair & Make-up: 小林真之

## 決まり切った大人にならず、遊びに全力！ だから仕事も面白い

「今回、演じた父親は不器用で、5年ぶりに島に帰ってきた一人娘が明らかに妊娠しているのに、何も聞けない。そのくせ娘の相手も島にくると知ったら、鉄パイプを持って港へ向かつちゃうような男です。これがもし自分の娘だったら……という思いも込めながら演じましたね。たぶ

ん俺でもそうなるんだろうな」と撮影時の様子を語ってくれた。プライベートでは5人の子の父親でもある。子育て論を伺うと、「大事にしているのは三つだけ。基本的には好きにさせる。問題が起これたら相談に乗る。頼み事をしてきたらとことん付き合う。子どもたちがまだ小さい頃、『夏休みにどこかに連れて行って』と言うので、30日間

毎日海へ連れて行ったり、31日目に「たまには家でくつろごう」と言ってきました(笑)」。日頃から「仕事も遊びも全力」がモットーの哀川さんらしいエピソードだ。しかし、全力には順番があるという。「まず全力で遊ぶ。遊びつて全力じゃないとつまらないからね。みなさんも子どもの頃、へとへとになるまで遊んだ思い出があるでしょう？ 大人になるとその感覚を忘れてしまいがちだけど、自分はその延長で真剣に遊んできたから、仕事も同じように全力が出せる。そして、仕事もまた、限界まで力を振り絞ればものすごく面白い。だから今の自分があるんだと思っています。この先も大人にならず、人生を面白がっていききたいですね」

### 「一月の声に遊びを刻め」

監督自身が47年間向かい続ける“ある事件”をベースにした作品。北海道・洞爺湖の中島、伊豆諸島の八丈島、大阪の堂島の三つの“島”を舞台に、ストーリーの重要な存在として登場する“れいこ”をめぐる心の葛藤が描かれる。哀川さんは二つ目のエピソード「八丈島編」に登場。男手一つで育てた娘が妊娠して帰省し、突然の出来事に戸惑う父親を演じる。

■脚本・監督: 三島有紀子

■出演: 前田敦子、カリーセル麻紀、哀川翔、坂東龍汰、片岡礼子、宇野祥平、原田龍二、松本妃代、とよた真帆

2024年2月9日(金)テアトル新宿ほか全国公開



©bouquet garni films

## Show Aikawa



# 哀川翔

極道系作品から

爽やかな朝ドラまで、

硬軟自在に役を演じ分ける

哀川翔さん。

2月に公開される映画では、

八丈島を舞台に

男手一つで育てた娘との

距離感に悩む父親役を熱演。

役に込めた思いとともに、

仕事も遊びも全力で

「この一瞬を悔いなく生きる」

秘訣について、

伺いました。



Vol. 164



# 口福につぼん

吉井省一

観光にはもってこいの山梨県で旨いものといったら、やはり「ほうとう」。山梨県民の「普段着のごちそう」ともいえる逸品です。

大会で3連覇した  
こだわりの郷土食  
ご紹介するのは「昇仙峡  
ほうとう味比べ真剣勝負」  
で3年連  
続で1位の



済生会支部未設置県

## 未設置県の逸品

済生会は2023年度からスタートした「第3期中期事業計画」で支部未設置県の支部設立(復活)をビジョンに掲げています。

口福につぼんでは今年3月号まで、済生会支部未設置の7県の逸品を紹介いたします。

あけましておめでとうございます。今年も皆さんに喜んでいただける美味情報をたっぷりお届けしていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

さて、お正月につきものの縁起が良い初夢といえば、「富士二鷹三茄子」。その筆頭となる富

士山の絶景スポットが多数あるのが山梨県。このおめでたい県から、今年もスタートします。景勝地として知られる昇仙峡をはじめ、富士五湖、石和温泉郷、武田信玄ゆかりの史跡など、



「鮑の煮貝」をつくる際に取り外した肝(左上)、白ワインで育てた「山梨ワイン豚」(右上)、赤味噌・白味噌にかぼちゃを練り込んだ秘伝の味噌(左下)、京都の老舗と研究を重ねた出汁(右下)などこだわりの逸品がいっぱい

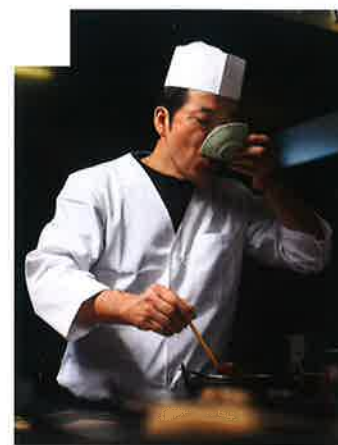
お取り寄せのセットには、スープ、生麺、野菜、豚肉と食材がすべて入っているのが、名店の味を手軽に堪能できます。

## 76 黄金ほうとう

《ほうとう蔵歩成》

山梨県山梨市

スープはかぼちゃのペーストを加えた特製味噌に、鮑の肝のペーストと京都の出汁専門店と開発した出汁を合わせたもの。「黄金ほうとう」はこのかぼちゃの色から名付けられています。また、お店と同じ生麺をはじめ、ワインを飲ませて育てた「山梨ワイン豚」、自社農園や名産地で採れた新鮮な野菜やきのこまで、食材にもこだわりがあります。



素材選びから味付けに至るまで妥協を許さない職人気質が、3連覇という偉業をもたらした

連覇を誇る職人さんの腕。その王者の味を求めて、県外からもたくさんのお客さんがお店へいらつしやること。戦国武将武田信玄が陣中食として好んで食したと伝えられる「ほうとう」。天下取りのグルメ合戦へいざ出陣でござる。

寒い季節にぴったり、心も身体もポカポカ

作り方は簡単。まずスープを鍋に入れ適量の熱湯を加えます。ほうとう麺は茹で上がるのに時間がかかるので、火を入れたらまず鍋に入れます。その後、豚肉と野菜・きのこを入れ、時々



自社農園や名産地で採れた野菜・きのこをはじめ、食感や栄養バランスも考え選び抜かれた食材。鍋さえあれば、本場の味が楽しめる



かき混ぜながら煮込めば完成。ぐつぐつ煮えてくるほどに、赤味噌と白味噌仕立てのスープの匂いが鼻をくすぐって食欲をそそり、ひと口含むと、その濃厚な味わいに驚かされます。煮

込んだかぼちゃはホクホクで、ほうとう鍋には不可欠の名脇役。白ワインで育てた「山梨ワイン豚」のお肉は、柔らかくて脂身の部分もさっぱりした味わい。にんじんや大根、白菜などの野



座席数200の河口湖店は、眼前に富士山の雄姿が迫る好ロケーション。店内には信玄にちなんだ兜・鎧も展示

菜がたっぷり、きのこ類も鍋を美味しく彩ってくれています。主役である平打ちのほうとう麺は、ツルツルかつモチモチした食感で、旨みのあるスープとよくからみます。太くて食べ応えがあり、ボリュームも充分。残ったスープにご飯を入れると「濃いおじや」も楽しめます。

寒い冬は鍋物が一番。お腹いっぱい信玄の隠し湯にでも飛び込めたらもう言うことなし。ああ、山梨県民がうらやましい。山梨には物事がうまくいった時に「うまいもんだよ、かぼちゃのほうとう」という言い回しがあります。2024年は、うまいことがたくさんあるように願いを込めて、いただいでみてはいかがでしょうか。

黄金ほうとうフルセット3人前(山梨ワイン豚入り)  
[生麺(ほうとう)160g×3、スープ140g×3、具(野菜)210g×3、具(肉)50g×3]  
4,860円(税込・送料別) 消費期限……出荷日を含めて冷蔵5日(生肉は冷蔵3日)

お取り寄せ・お問い合わせは  
ほうとう蔵 歩成  
〒405-0031 山梨県山梨市万力1091  
TEL: 0553-23-1567 (営業時間: 11:00 ~ 21:00)  
ホームページ: <https://www.funari.jp/>



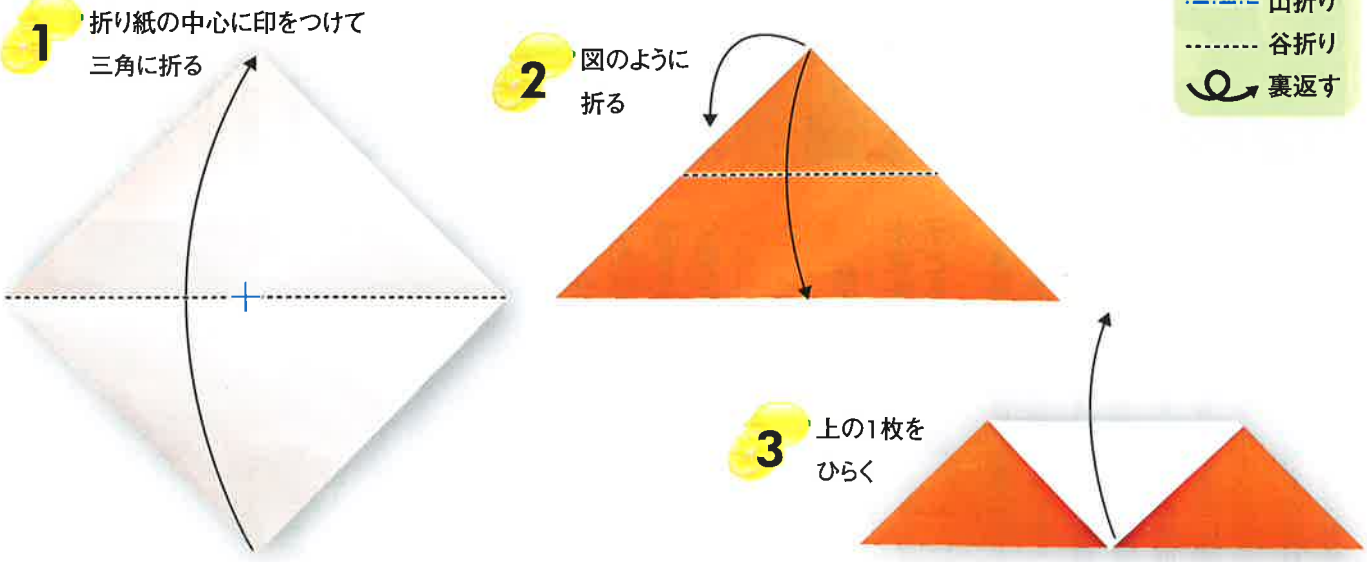




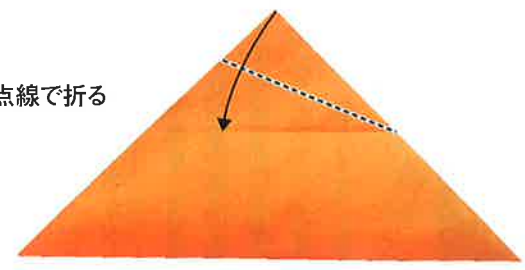
# 福は内！ 節分おに飾り



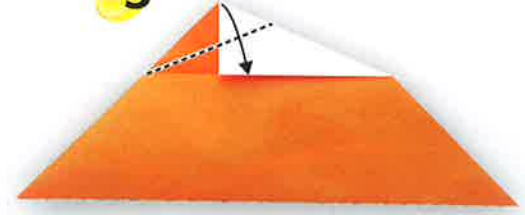
## 顔



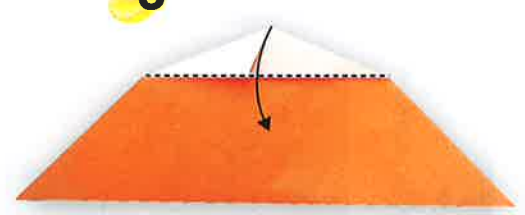
4 点線で折る



5 点線で折る



6 点線で折る



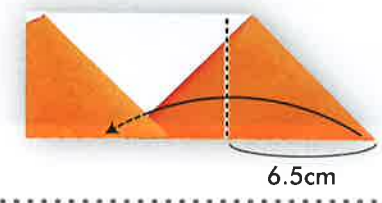
7 裏返す



8 左の角を点線で折る



9 右の角を点線で折り差し込む

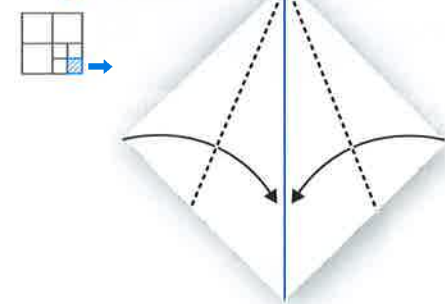


10 下の角を1.5cm折って裏返す

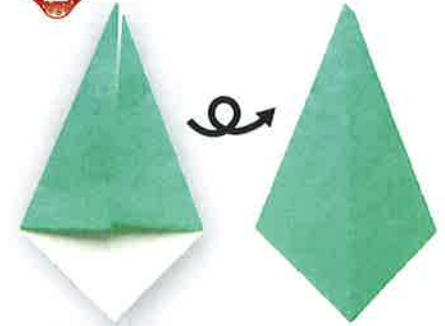


## ツノ

1 1/16に切った折り紙の左右の角を折る



2 裏返す。これを2つ作る



## 完成

ツノを差し込んでとめて、ペンや丸シールで目や鼻などをかき完成



いろいろな色で作ってね♡



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日來書院)、「12か月のおりがみ髪飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える！決定版おりがみ図鑑」(講談社)から発売。



動画もcheck!

作品・折り図：いまいみさ おりがみ協力：株式会社トーヨー



# 救命救急



（埼玉）加須病院・救急ワークステーション前。ドクターカーの本格運用が開始されたことを機に、救急現場で活動しやすいよう、高性能な専用ユニホームを導入した。（63ページ）

# topics

## 初めての「脳卒中サロン」 当事者・家族のつながりの場に

熊本病院

脳卒中の経験者やその家族が互いに助け合う場として「ピアサポート」の重要性が高まる中、当院でも2月に「脳卒中サロン」を立ち上げ、11月25日に初めて「脳卒中サロン」を開催しました。

地域の回復期医療を担う病院に協力いただき、入院患者さんや通所リハの利用者さんに声をかけを行なったところ、参加者は25人に。医療機関側のスタッフも含めると総勢42人の参加となり、大盛況でした。

会は当院脳卒中センターの橋本洋一郎特別顧問の挨拶から始まり、脳卒中を経験した人の講話、グループに分かれての茶話会で構成。参加者同士で経験を語り合ったり、アドバイスし合ったりする様子が印象的でした。

（企画広報室 森本通子）

★悩みがあってもどこで話をしたいのかわからない——。患者や家族にとって心強いサロンだと思います。

（本部広報室 杉山菜央）



## 未来を担う子どもたちと交流

鹿児島県社会福祉協議会による「未来の福祉・介護担い手スタートアップ事業」の講師依頼を受け、10月10・12日の2日間、当センター職員4人が鹿児島市内の小学校4年生4クラスに講話を行ないました。

「高齢者って？」「高齢者の施設ってどんなところ？」「お年寄りと接するときには気をつけることは？」など、子どもたちが気になることをスライドも使って説明。途中、脳活性の歌と体操の体験や、ゲームを実施しました。最後はグループワークを行ない「いくつかの不自由を感じているお年寄りに、私たちができること」を話し合いました。

子どもたちからは「認知症って知っているよ」「今度は施設を見に行きたい」などの感想がありました。

（済生記者 大迫良代美）

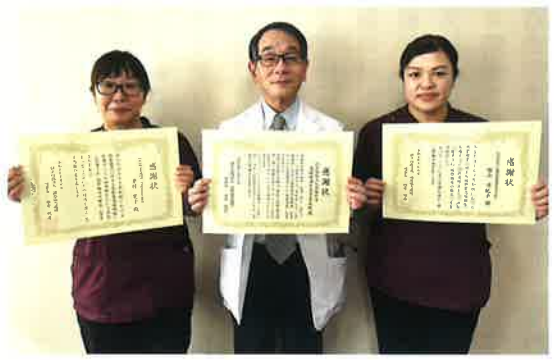


## 安村看護師らに JICAから感謝状

政府が派遣した国際緊急援助隊・医療チームの一員としてトルコ・シリア大地震の被災地で救済活動を行なった安村寛子看護師らと当院に対し、11月に国際協力機構（JICA）から感謝状が贈られました。

中谷敏院長は今回の表彰にあたり「感謝状をいただき名誉なことです。当院は国際緊急援助隊の活動に対する支援を、これからも行なっていく予定です」と話しました。

（大阪）千里病院



当院では現在、国際協力援助隊の隊員として11人の職員が登録されています。

（済生記者 秋山みゆき）

## 病院エントランスで 前立腺がん検診の啓発

滋賀県病院

「一人でも多くの人に前立腺がん検診を受けていただきたい」という思いから、前立腺がん月間の11月2日に当院エントランスホールで、泌尿器科の医師を中心とするスタッフ8人が啓発活動を行ないました。

頻尿・排尿時の不快感といった前立腺がんの自覚症状を記載

したパンフレットの配布や、検診の重要性について声かけを実施。早速、検診の予約をする人が現れました。これがきっかけとなり、前立腺がんの早期発見・治療につながればと思います。

（済生記者 西澤真由美）



（熊本）ほほえみ

## 秋の「コーヒー画」に挑戦

ほほえみの生活介護事業で、「臨床美術」を行ない、10月21日、20人の利用者さんが参加しました。

臨床美術とは、作品を楽しむながら作ることで脳の活



性と心の開放を促すアートセラピー（芸術療法）です。

当日は、臨床美術士の認定資格を持つ野仲由夏支援員が「秋のコーヒー画」プログラムを準備し、利用者の皆さんは絵の具代わりにコーヒーを用いて文字アートのチャレンジ。

①「ちがう」といわない、②「うまい」といわない、③手伝わない、④急がせない、⑤止めない——アシスト（支援）側はこの五つの心得を大切に、利用者さんたちをサポートします。

秋に対するイメージを皆さんで語り、コーヒーの香りを楽しみながら、「秋」の文字を題材に思い思いに作品を作りました。

（生活支援員 坂井公子）



〈宮崎〉 日向病院  
ホームページをリニューアル

10月31日にホームページをリニューアルしました。

従来のホームページよりも柔らかなイメージを基調とし、優しいグリーン色に仕上がっています。また、初めて見る人はもちろん、いつも利用して下さる人にも役立つツールとなるよ



う工夫しました。遅ればせながらスマートフォン対応になり、わざわざ指でピンチアウトしなくても見やすく、わかりや

すくなりました。リニューアルしたばかりですが改良の余地がある状況ですが、ぜひご覧ください。

（済生記者 村尾 愛）

〈北海道〉 小樽病院

QC大会入賞3サークル

第18回QC大会を11月27日に当院講堂で開催しました。

7サークルが医療安全や業務効率化等の成果を報告し、審査の結果、最優秀賞は5B（回復期リハビリテーション）病棟に。リハスタッフと看護師の多職種活動でモニタリングリハを開始し、ADL向上やナースコール削減などにつながった点が高く評価されました。

優秀賞には器具庫整理で業務効率を向上させたリハビリテーション課、優良賞には着替え対策でMRI室への金属類持ち込みをなくした放射線室、特別賞には二次性骨折予防継続管理料に関わる業務分担保体制を築いたクリニカルパス委員会

FLSチームがそれぞれ選出。2月に千歳市民文化センターで開催される北海道大会には、過去の出場回数も考慮し、リハ

課を除く3サークルが出場します。（地域連携課 定 淳志）

〈神奈川県〉 横浜市六浦  
地域ケアプラザ

社協から表彰

11月14日、20年以上にわたる地域福祉の向上と発展に多大な貢献したことが評価され、横浜市社会福祉協議会から表彰を受けました。

横浜市六浦地域ケアプラザは平成10年5月、横浜市金沢区に開設。高齢者、子ども、障害のある人、外国人など、誰もが地域で安心して暮らせるよう、身近な福祉・保健の拠点として地域住民が主体となり、さまざまな取り組みを行なっています。市内145カ所のケアプラザのうち、港南台・菅田・能見台・六浦の4カ所は、横浜市から指定管理者の指定を受けて済生会が運営しています。

（所長 佐藤 章）

〈東京〉 中央病院

3年ぶりに子育ての会  
済中「はぐくむ」復活です

11月21日、済中子育ての会「は



催で設立され、子育て中の悩みや不安を一人で抱えず、相談できる場になってほしいとの願いが込められています。今回は看護部だけでなく医療

技術部門のママさんも参加し、スタッフを含めると30人規模に。皮膚・排泄ケア認定看護師の澤田美絵副看護部長が、産後の「骨盤底筋体操」についてお話ししました。

（済生記者 鈴木香純）

福島医大への訪問などを行ない、令和6年度より2人の研修医を迎え入れる予定です。なお、臨床研修室は一部リフォームを行ない2月に完成予定です。

（済生記者 齋藤有里）



病院改革真っ只中！  
福島総合病院

患者に寄り添ったワンストップの医療提供が実現できる「ケアミックス型病院」の地域トップを目指す当院にとって、若手常勤医師確保は重要な課題です。

そのため、基幹型臨床研修病院の指定を受けることを目指し、昨年度から「臨床研修準備室」を設置。研修プログラム作成や院内体制の整備など、全職員が約1年かけて準備してきました。その結果、令和5年3月、無事指定を受けることができました。研修医の募集にあたっては、プロモーションビデオの作成や

〈新潟〉 特養長和園  
折り紙ボランティアと  
クリスマス作品づくり

12月4日、当園が運営する通所型サービスA「オープンテラス花そりて」でクリスマスツリー、ベル、ブーツの3種類の折り紙を作りました。

教えてくれたのは、三条市七カンドライブ応援ステーションの紹介で来てくれた5人の折り紙ボランティアさん。1人で3〜4人を担当しながら、丁寧に教えてくれました。

ボランティアさんたちは事前に施設が提示した折り紙資料を確認した上で参加してくれ、利用者さんからは指導がわかりや

すいと大好評。出来上がった作品を見て「いいクリスマスがやっつけそうだね」と満足げでした。

（済生記者 西川まゆみ）





皇后陛下の手ぬぐい  
いただきました

（愛媛）西条特養

皇后陛下のお誕生日の12月9日、御下賜品の手ぬぐいを入居者の皆さんにお配りしました。この手ぬぐいは、済生会本部から支部を通して済生会の特別養護老人ホームや養護老人ホーム



ムなど11カ所に届けられたもの。柚子をあしらった落ち着いた色調の懐かしい日本手ぬぐいで、今のようにふんわりしたタオルがなかった時代によく使われま

した。

入居者さんの中には冬至の柚子湯を思い出したのか「昔はよく使ったねえ」「頭にまけるね」などという人も。

皇后陛下の60歳のお誕生日を、皆さんご自分の誕生日、お祝いごとのように喜んでいました。

（済生記者 中野佳弥）

児童虐待への支援を知ってほしい

（大阪）吹田病院

当日は100人を超える参加者を前に、小児科の小川哲科長から医療機関での児童虐待対応について説明。担当した看護師やMSWが、支援経過や虐待対応における課題等を報告しました。

会場には「子どもの声を聴くことの大切さがわかった」「保護された子どもたちの今後はどうなるのか」といった意見や質問が飛び交いました。アンケートでは「子どものSOSに気づけるようにアンテナを張っておきたい」「無関心」という形で虐待に荷担しないようにしなければならぬ」との感想が多く寄せられました。

（福祉医療支援課 MSW 田崎千里）

出張健康教室を再開

（神奈川）横浜市南部病院

12月17日、鈴木将裕精神科医長が出張健康教室「知っておきたい認知症とうつ病」を港南地区センターで開催し、地域住民20人ほどが参加しました。



今回の演題は、誰しも発症する可能性がある認知症やうつ病について。「コロナ感染後に記憶力低下を感じるが、認知症との関連は？」「うつ病を疑わせる症状の友人がいるが、どう接したらよいか？」など質問が相次いで寄せられ、関心の高さがうかがえました。

なお、コロナ禍以降中止していた出張健康教室は2023年8月に再開。今後も定期的に院外での健康教室を開催していきます。

（地域医療連携室 広報担当 小澤郁斗）

全国ソフト、初戦で散る

福岡総合病院

11月19日、第44回全国済生会親善ソフトボール大会が福岡市雁の巣レクリエーションセンターで開催され、参加8チームによる全10試合が行なわれました。ホスト病院として推薦枠で出場した当院の初戦相手は、今大会で初優勝を飾った松山病院。同院は一人ひとりの能力とチー

第44回全国済生会親善ソフトボール大会

令和5年11月19日 於：福岡市雁ノ巣レクリエーションセンター



ムワークが素晴らしく、初回から3ランホームランを含む6点を奪われ、その後1点も反撃できず完封負けを喫しました。残念ながら未勝利のまま敗退という悔しい結果に終わりましたが、普段対戦できない強豪チームとの試合経験は、来年に向けての糧となりました。

（医療相談室 澤谷友恵）

「毎日来たいね！」  
（福井）特養聖和園

11月19日、3年ぶりとなる地域交流会を当園デイサービスで開催しました。高齢で交通手段のない人の送迎も行ない、当日は近隣地区住民29人が参加。はじめに「高齢者の救急搬送の流れや、ためになる話」と題し、大野市消防署の阪上明宏氏がいざというときの具体的な行動について講義を行いました。

その後はミュージックケアの時間。音楽に合わせて歌や手拍子で会場が一体となり、大いに沸き返りました。職員によるフルートやハンドベル演奏、昔懐かしい紙芝居の読み語りも。地域の皆さんからは「こんなデイサービスがあったら毎日来た



いね」という声も多くありました。（済生記者 野尻 宗）

熊本病院

消防局と共催で  
メディカルラリー

11月18日、熊本市消防局と合同で「メディカルラリー」を開催しました。

メディカルラリーとは、医師、看護師、救急救命士6人で構成された医療チームが救急医療の判断スピードや技術を競う技能



学生ボランティア、運営スタッフを含め、総勢300人以上が参加。競技に関わった医療従事者だけでなく、参加した多くの人の救急医療に対する意識向上や技能向上につながる機会となりました。

（済生記者 東 賢剛）



# topics

## 心も身体も踊り出す 中小井火消し太鼓

〔愛知〕青い鳥  
医療養育センター

夏まつりの代替行事として、



人を見かけた時や災害発生時に、自分が取るべき行動は何かを知ることができた」と話してくれました。

（済生記者 鈴木亜希乃）

をしているうちにスムーズに、AEDも使いこなせるようになりました。

あるスタッフは「倒れている



## モンゴルから7人の看護管理見学者

〔愛媛〕今治病院

「モンゴル日本病院における病院運営及び医療人材教育機能強化プロジェクト」の一環で、11月22日、同院副院長をはじめとする医療スタッフ7人が当院を見学に訪れました。

モンゴル日本病院は、政府開発援助（ODA）により無償資金協力で建設された病院です。本プロジェクトは徳島大学・愛媛大学・コエイリサーチ&コンサルティング共同企業体が国際協力機構（JICA）から

の委託で計画・運営。今回は愛媛大学から当院に依頼があり、看護管理の研修として実施しました。

当日は宮嶋優里看護部長が当院の看護管理について説明後、救急室を含む外来、病棟、健診センター、総合医療支援室を見学。急性期から入院後、転院・退院の対応、予防事業まで幅広く学んでいただきました。

（済生記者 日野美華）

## 地元企業・図書館とコラボ 親子で学ぶ食育と健康

〔大阪〕吹田病院

11月26日、吹田市・摂津市民を対象とした「健都フェス2023」の中で、地元企業の山崎製パン大阪第一工場の協力を得て、「親子サンドイッチ教室」と健康医療講座「がんに負けない」を開催しました。

当院は毎月、吹田市と摂津市にまたがる北大阪健康医療都市（通称「健都」）にある図書館「健都ライブラリー」と協働企画し、



地域住民のニーズに合わせた講座を開催しています。

会場となった健都ライブラリー

には15組42人の家族が訪れるなど大盛況。サンドイッチ教室では、かわいい帽子とエプロンをまとった小さなシェフたちが家族と協力して調理に奮闘していました。

企業の食育と病院の健康啓発が行政の図書館で融合し、新しい価値を共創した企画となりました。

（総務課 岡利悟志）

## 看護補助者にBLS研修

〔大阪〕中津病院

11月8・22・27日の3日間、病棟で働く約70人のフロアアシスタント（看護補助者）向けにBLS（一次救命処置）・災害研修を実施しました。

まずは災害時の対応とBLSの方法について看護師から講義を受けた後、6グループに分かれてBLSの実技練習。倒れている人を発見、周囲の安全確認、感染防御、意識確認、応援要請、呼吸確認、心肺蘇生・AEDといった一連の流れを、グループごとに人形を使って練習しました。

最初はなかなかうまくできなかった胸骨圧迫も、何度も練習



おはなし会を開催してくれました。

最初の絵本は「たっちだいすき」。託児所にもある絵本ですが、出張おはなし会では特大サイズの絵本が出てきて、8人の子どもたちは大盛り上がり。出てくる動物たちの名前を一緒に言いつつ、最後は動物たちと「たっちー」と手を挙げ、とても楽しそうでした。

そのほか、パンダを数える絵本、さらには紙芝居までありました。そして最後は手作りの手袋シアターで「おはながわらった」を披露していただき、子どもたちも一緒に手でお花を作ったり歌ったりして大喜びでした。

（総務課 大川七海）



11月12日に地域の「中小井火消し太鼓」の皆さんを招いて演奏会を行いました。子どもから大人まで約150人が迫力ある太鼓の音色に酔いしれました。

いざ演奏が始まると、真っ先

に真ん中に飛び出して踊り出す女の子や、その場で体を揺らしリズムに乗る男の子、迫力満点の音にびっくりする人も。視力・聴力ともに低下した利用者さんも、室内から外に出ると身体に響く音を感じ取ったのか、手拍子をして楽しんでいました。

演奏が終わると「もつと聴きたい」と駄々をこねる子も。自然と沸き起こる「アンコール」に応じていただき、ここでまた観客は大喜びでした。

（済生記者 田口幸子）

## 託児所出張おはなし会

長崎病院

11月8日、長崎市立図書館の職員さんが当院併設の託児所へ絵本の読み聞かせに来て、出張





〔山形〕はやぶさ保育園  
「レッツ！クッキング！」

11月13日、5歳児24人が食育活動の一環として、園の畑で収穫したさつまいもを使って「さつまいもパフェ」を作りました。さつまいもを潰してケーキ生地を作るチームと、生クリーム



を作るチームに分かれてクッキングスタート。ケーキチームは、最初のうちはいもが硬くて潰すのに苦戦しましたが、ボウルを押さえる人と潰す人に分かれたことで解決。生クリームチームは、泡立て器を上手に使うなど、

子ども同士で考え、協力しながら活動する様子が見られました。そして、待ちに待ったおやつ。袋に入った生クリームを自分で絞り、盛り付けもしました。初めて食べるさつまいもパフェに「おいしい！」「甘い！」と、感動いっぱいの子どもたちでした。

（済生記者 齋藤里奈）

身寄りなし問題研究会  
オンライン研修会に42人

第3回済生会身寄りなし問題研究会を11月18日にオンラインで開催し、42人が参加しました。当日は吉村信一行政書士を講師に迎え、「おひとりさまの死後事務委任」終末期、低所得等の事例から〜」をテーマに講演。続いて、〈千葉〉習志野病院の村田智美福祉相談室長が「死亡患者の意思が伝わらなかつたケース」というタイトルで事例報告を行ないました。

その後、グループに分かれて講演内容や死亡退院事例で困ったことなどを話し合い、対応方法や留意点などを共有することができました。講師への質問も多く、活発な意見交換が行なわれ

れる有意義な会となりました。（神奈川県病院 医療福祉相談 室長 鎌村誠司）

〔福岡〕飯塚嘉穂病院  
身寄りがない方も生きやすく  
対面式の協議会

飯塚市・嘉麻市・桂川町で構成する5ブロック地域包括ケアシステム推進協議会を11月15日に開催しました。ここ数年はコロナの影響でオンライン開催が中心でしたが、5類移行を受け、4年ぶりに完全対面式で開催。64人の参加申



し込みがあり、民生委員も多数参加しました。テーマは「身寄りがない方の支援ガイドラインを作ろう」。今回は、身寄りがない方の支援に取り組む地域包括支援センターから事例を提供していただき、グループワークを中心に協議を行いました。「直接顔を見て、同じテーマについて話をするのはやはりいいですね」と大変好評でした。良好なコミュニケーションの上に、地域支援は根付くと実感した2時間でした。（地域医療連携室課長 濱崎妃沙子）

〔埼玉〕川口総合病院  
同期と過ごせる貴重な機会

昨年からはじめた事務職員初任者研修。新卒で入職した事務職員を対象に、社会人マナーから実用編まで全6回（月1）開催され、今年度は11人が受講しました。

最終回の10月27日には、自分はどういう人か、自分のよいところは何かなどをほかの受講者に紙に書いてもらうワークショップを実施。改めて他者から



見た自分の強みや価値観を知り、うれしい気持ちやモチベーションアップにもつながったようです。研修を終え、受講者からは「配属先がそれぞれ異なる同期たちと過ごせる貴重な機会として、毎回楽しみでした」との感想がありました。

（済生記者 原 衣里奈）



〔埼玉〕川口総合病院  
ハンセン病研修での学びを  
院内講習会で発信

11月15日、院内講習会で事務職員43人にハンセン病について話をしました。

筆者は10月19・20日に開催された「第16回済生会広報実務研究会「ハンセン病問題と新型コロナ

ロナの共通点から済生会の広報を考えるワークショップ」に参加。「歴史の過ちを繰り返さないように正しく理解し、伝えていくこと」「人権の尊重」について、まずは自身ができることから取り組んでいくことが重要と考え、研修で学んだことを伝えました。

職員からは「入所者の子どものたちの涙に胸を引き裂かれる思い」「近年まで人権侵害が続いていたことが信じられない」改めて自分ごととして考えることの大切さを実感した」などの感想がありました。

（済生記者 原 衣里奈）



〔神奈川〕金沢若草園

津波を想定した防災訓練

12月7日、津波を想定した防

災訓練を実施しました。当施設がある金沢八景は東京湾の沿岸部に面しています。東日本大震災では津波が観測され、金沢区の防災計画でも津波への対応が盛り込まれています。当日は警報とともに案内が流



れ、職員の誘導のもと指定避難場所に避難を開始。一部介助の必要な利用者には職員が同伴し、就労継続支援A型、就労継続支援B型、生活介護のそれぞれの利用者合計58人が無事に避難することができました。

（支援課 日高 純）



「子どもの命とじゅうろを守る」パレード

〔鳥取〕 境港総合病院

境港市で「児童虐待防止啓発パレード」が11月4日に行なわれ、当院からは地域医療総合支援センターのMSW2人が参加しました。

同イベントは、児童虐待防止推進月間の11月に市民へ児童虐待防止を広く呼びかけるための活動の一つです。

出発セレモニーは境港市駅近くの妖怪広場で実施。市民だけでなく観光客も見守る中、境港市要保護児童対策地域協議会の柏木香寿子会長と伊達憲太郎市長の挨拶に続き、児童虐待防止の願いを込めたオレンジリボン



憲章を唱和しました。

その後、民生児童委員、保育・教育関係者、市役所職員など約60人が水木しげるのロードを行進。妖怪神社の前などでオレンジリボン憲章を唱和しました。  
(ソーシャルワーカー 磯邊佳恵)

〔大阪〕 中津病院

医療と介護の多職種連携研修会

11月20日、大阪市北区のケアマネ、急性期医療機関の退院支援に携わる看護師、MSWなど約70人が当院大講堂に集まり



「医療と介護の多職種連携研修会」を開催しました。

はじめに笠藤晋也入退院支援室課長代理から中津病院の現状説明、田島静管理部長から4月に開院した大阪北リハビリテーション病棟の現状説明。その後10グループに分かれ、「ケアマネ・病院間の連携について今感じていること」「利用者・患者さんのためにスムーズに連携する工夫」の2項目についてグループワークを行いました。

参加者からは「立場によっていろいろな考えや思いがあることがわかった」「患者さんの状況を共有する連絡窓口がはっきりしていなかったが解決できてよかった」などの声があがり、



有意義な勉強会になりました。  
(済生記者 鈴木亜希乃)

〔三重〕 明和病院

人財確保対策チーム発足

当院では、人財確保対策チームをつくり、看護師・介護福祉士・理学療法士・言語聴覚士・保育士・事務の6職種13人で活動を行なっています。あえて人財と表記するのは、病院の財産は人であり、ハイコオリティー

なサービスを提供する最大の要素であるからです。

同チームでは2023年6月23日の立ち上げ以降、月1回の会議を実施。病院が求める人



ローカルタレント久保ちゃんスタッフ

財像の分析、リクルート活動の立案や広報ツールの作成、職員に求める人財のアンケート作成、インスタグラムの開設、病院見学会の立案などを行なっています。

先日、院内に職員募集のチラシを掲示したところ、応募が複数あり活動の成果を実感しました。  
(済生記者 藤岡拓人)

静岡済生会総合病院 がん患者支援イベントに200人

がん患者支援チャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン静岡2023」が11月18日、静岡県立大学小鹿キャンパスで開催され、緩和ケア・がん診療連携委員会メンバーなど7人のスタッフが参加しました。

当院ブースでは、職員から集めた品物でバザーを出展したほか、ケア帽子の展示販売、手作り雑貨の販売を行ないました。風が強くて寒い中での開催でしたが200人以上にご来場いただき、ブースの売り上げや当院への寄付金は総額11万5067円に上りました。



地域のがん征庄に対する熱い思いが感じられる素晴らしい日となりました。  
(医事課副主任 山田紘平)

〔埼玉〕 川口総合病院

より顔の見える医療連携を

11月9日、第28回地域医療連携の会を4年ぶりに完全集会形式で開催し、川口市長、川口市医師会会長をはじめ、地域の医療関係者など約100人が当院に参集しました。

佐藤雅彦病院長による開会の挨拶に始まり、松井茂副院長・消化器内科部長が司会を務め進行。天野絃子眼科主任部長と西



山綾子血管外科主任部長がそれぞれ講演を行ない、各科責任者医師の紹介、閉会の挨拶を名古屋恵子副院長兼看護部長が務め、盛況のうちに閉会となりました。会終了後、当院の職員食堂で懇親会を開催。地域の医療機関の皆さんに日頃の感謝を直接伝えながら情報共有・情報交換を行なうことができ、より顔の見える医療連携の構築につなげることができました。  
(地域医療連携室 小森谷勇介)





## 消防署と合同火災避難訓練

静岡済生会総合病院

11月14日、病棟での火災発生を想定した消防訓練を静岡市消防局と合同で実施し、職員40人が参加しました。夜間に病室から出火、初期消火を試みたものの延焼したとの想定。出火の消防地区隊長の指示のもと、入院患者を非常階段で院外へ避難誘導し、屋外では看護師が消防局の救急救命士とともに

ド)を用いて、参加者が各自の部署ごとに進捗を報告。それぞれの課題等を共有しました。次に、病院の現状における強みや弱みを洗い出すSWOT分析などの手法で戦略を練り、各チームが行動計画を作成して発表しました。コロナの5類移行に伴い、久しぶりの対面での開催。医師、看護師、コメディカル、事務職が一つのチームとなり、職種の違いを越えて自由に意見を交換する様子は、まさに「ワイガヤ」と呼ぶにふさわしいものでした。

(済生記者 松尾寛志)

## 学生も職員もキラキラ

〈岡山〉吉備病院

「チームで医療に関わる職業に夢を描く中学生の、夢を育む、お手伝いをしよう」をコンセプトに、9月7日に立ち上がった職場体験プロジェクト。当院の全職種で構成する24人のメンバーで2カ月間対話を積み重ねて企画し、11月7〜9日・14〜16日の3日間ずつ、近隣の足守中学校・高松中学校からそれぞれ4人・5人を迎えて職場体験を実施しました。



脳外科での縫合体験や循環器での心臓エコー体験、透析装置を使つての実験など、各部署が用意したプログラムは盛りだくさん。参加した中学生からは「楽



## 性暴力被害者支援について 警察官20人に講義

〈栃木〉宇都宮病院

栃木県警察本部から依頼を受け、10月17日、当院地域連携課の大塚美幸係長(MSW)とちぎ性暴力被害者サポートセンター(とちエール)専任の高木茜相談員が、栃木県警察学校で警察官20人に講義を行いました。

当日は、性暴力被害者のためのワンストップ支援センターである「とちエール」の事業概要、性暴力被害者支援の実際や警察との連携事例を紹介。受講者からは「実際の支援事

しい。貴重な体験をさせてもらえた。医療者になりたい」とキラキラした笑顔が見られ、プロジェクトメンバーも自身の仕事に対するプライドを再認識でき、輝きを放っていました。

(師長心得 佐藤真理子)

## 「ランサムウェア」対策

〈茨城〉神栖済生会病院

11月30日、全職員を対象にサイバーセキュリティ研修会を実施し、医師を含む職員48人が「ランサムウェア」の脅威と対策について学びました。ランサムウェアとは、パソコンやファイルを使用不能にして解除のための身代金を要求する不正プログラムです。

茨城県警察公安課による被害事例や具体的対策についての紹介の後、実際に感染した場合の画面一例も見せてもらいました。身代金を要求する真っ赤な画面の警告文や、ファイルやパスワードを盗む作業の巧妙さに、デモとわかっていても背筋が寒くなる思いでした。

後日、小テストを実施。職員一人ひとりが日頃から情報セキュリティを意識して、患者さん

例や被害者心理等を学ぶことができ、被害者に寄り添った捜査が行なえるよう努力していきたい」との感想が聞けました。大塚係長は「私たちの声や学びを現場でぜひ生かしてください」とエールを贈りました。

(地域連携課 秋山綾香)

## お父さんやお母さんの働く姿に興味津々

〈大阪〉吹田病院

お父さんやお母さんの働くところを見せよう「子ども参観日」を11月23日に開催しました。このイベントは「次世代育成行動計画」に当院が掲げた目標の一つです。

参加者は小学1年生〜中学3年生の7家族10人。当院センターホールに集合した子どもたちは、島俊英院長から済生会や吹田病院の話聞いた後、聴診器・血圧測定・心拍数測定を体験しました。そしていよいよ職場訪問へ。実際に働いているお父さんやお母さんの様子、現場のさまざまな機器を見学し、同僚職員へもいろいろな質問をしていました。子ども参観は初の試みでした

の情報や病院を守らなければとあらためて強く感じました。

(済生記者 江口裕紀)

〈北海道〉小樽病院

## 「ワイガヤ」幹部研修で 病院の未来を考える

12月9日、和田卓郎院長をはじめ課長職までの35人が出席し、幹部研修を実施しました。まず和田院長から当院の現状



と目指すべき方向性について話があり、その後グループワークを行ないました。財務業績に限らず多面的に業績を定義するBSC(バランス・スコアカー

が、貴重な体験をしてもらえたと思います。

(人事・人材開発課係長 倉橋健一郎)





〈石川〉金沢病院  
糖尿病の正しい理解と  
予防のために

11月14日の世界糖尿病デーに  
合わせ、当院糖尿病チームを中  
心に多職種がそれぞれ専門ブ  
ースを設けイベントを開催しまし  
た。

テーマは「体にいいことはじ  
めよう」。痛みの少ない穿刺器  
具を使用した血糖測定、血糖値  
が気になる・高い方向けの低糖  
質食品紹介、自分でできるフッ  
トケア指導、インソールや靴の  
相談などさまざまなブースを設  
置。

また、病院エントランスでは



公開講座が開かれ、医師と管理  
栄養士が「糖尿病について」「糖  
尿病と足」「食事療法の基本と  
外食の選び方」と題して講演を  
行ないました。

〔看護部 日本糖尿病療養指導士・  
フットケア指導士 宮下未紗〕

〈山口〉居宅介護サービス  
複合施設にほ苑

優しさがあれば  
介護士になれます

11月24日、仁保中学校2年生  
10人に福祉の仕事の魅力とやり  
がいを伝える「ふくしの寺子屋  
授業」を行いました。

授業を担当したのは、当施設  
の介護士とケアマネジャーの9  
人。高齢者疑似体験や車椅子に



ンファレンスの案内を行なって  
います。

11月29日のカンファレンスに  
は41人が参加。新興感染症を想  
定した実技訓練として、吐物の  
処理の演習を実施しました。

ヨーグルトを吐物に見立て、  
ブラックライトを使用し吐物の  
範囲や消毒拭き残しを確認。片  
付けのポイントを本番さながら  
に実演しました。

参加者からは「今後の業務に  
生かします」との声をいただき  
ました。

〔総務課 鷹野勇介〕

〈千葉〉習志野病院

「医師の仕事」中学生が体験

11月30日、医師を志す中学生  
1人の職場体験を受け入れまし  
た。

当日は、医局で診療部の田邊  
信宏副院長が医師の仕事につい  
て説明。その後は外来診療室に  
移動し、患者さん同意の上で診  
療風景を見学しました。病棟で  
は呼吸器外科医師や病棟看護師  
の説明を受け、回診に同行。手  
術室では手術の流れや无影灯の  
しくみなどを学びました。

午後は教育研修センターで座

〈大分〉日田病院  
地域病院と共に学ぶ  
感染対策

当院は「感染対策向上加算  
1」の届出要件の一環で、感染  
管理地域カンファレンスを年4  
回開催しています。参加の対象  
は「感染対策向上加算2または



3」の届出を行なった保険医療  
機関ですが、地域のネットワー  
ク構築と院内感染対策の知識を  
より深めてもらう目的で、大分  
県西部医療圏の全医療機関にか

〔副施設長 尾中未来〕

乗る体験のほか、介護士の仕事  
内容や楽しさ、生きづらさを抱  
えた人をアプローチするのが福  
祉の専門職であることを中学生  
たちに伝えました。

「給料はいくらですか？」とい  
ったストレートな質問もありま  
したが、「どうすれば介護士に  
なれますか？」の問いに「まず  
は優しさがあればなれます」と  
返答。その後のアンケートで「介  
護士になるのもいいなと思っ  
た」と書いてくれた生徒さんも  
いた。こちらも元気をもらいま  
した。

学の時間。済生会の成り立ちや  
当院の理念、チーム医療につい  
て講義を行いました。

当院は中学生の職場体験を年  
に10人程度受け入れています。

会議名を改め病院の未来を創る第一歩へ

これまで「目標設定会議」と  
して行なっていた管理職会議を  
「未来を創る会」に改め、11月



18日に開催しました。

当日は管理職82人のうち53人  
が参加。講師を招き、100  
周年に向けた吹田病院のより良  
い未来を創る一歩をデザインす  
る1日としました。

職種ごとにくじを引き、グル  
ープを決めて開始。視座を変え



て見えてきたこと、感じたこと  
からこれからの当院に必要なこ  
とをディスカッションし、未来  
に向けて具体的に何を始めるか  
をグループ別に発表しました。  
参加者からは「有意義な会だっ  
た」という声が多かったです。

〔事務次長 上島照美〕

〈大阪〉吹田病院

〔総務課 佐藤昌明〕

将来の人材確保を見据え、医療  
業界に興味・関心を持つ人を増  
やしていくことはとても大切に  
す。



静岡済生会総合病院

お医者さんになりたい

11月18・19日、エスバルスドリームプラザで開催された子ども向け運動体験イベント「グロリアアップチャレンジプロジェクト2023」に、当院もブース出展しました。

このイベントは、子どもたちの未来のため、体験の場・育みの場・探求の場をつくることを目的としています。当院は職業体験を企画したところ、2日間で750人の子どもが来場しました。

白衣やユニホームを着て、聴診器でお母さんやお父さんの心臓の音を聞く未来のお医者さん・看護師さんのかわいい姿に、参加したスタッフも癒やされました。また、体験した子どもたちから、「大きくなったらお医者さんになりたい」といった声を聞くこともできました。

(済生記者 酒井あい)

奈良病院

医療講座とともに  
コンサートとヨガ体操も

11月18日、「済生会奈良病院



フェア2023秋―市民公開講座&コンサート」をJR奈良駅前の「なら100年会館小ホール」で開催しました。本フェアの特色は、音楽コンサートと医療講座の融合です。ウエルカムコンサートが始まり素晴らしいピアノ・フルート演奏で会場がなごんだ中、当院婦人科・福本由美子医師が登場。「知っておきたい女性の病気」について解説しました。

小ホール前のロビーには、当院各部署が相談ブースを設置。あいにくの小雨が降る中、定員50人を超える参加者が来場し盛況でした。

(済生記者 川向 透)

「富山」なでしこ保育園

民話語り聞かせの集い  
大ネズミ退治に盛り上がる

「とやま語りの会」による民話・童話の語り聞かせの集いが10月26日に開かれ、3〜5歳の園児72人に、青森県の民話「小僧が描いた猫の絵」の劇が披露されました。

お経も覚えずに好きな猫の絵ばかり描く小僧。お寺を追い出されてしまいますが、巧みに描かれた絵の中の猫が画面を抜け出し、大ネズミから小僧を救ってくれるというお話です。

劇が始まると、あつという間に子どもたちはお話の世界に引き込まれました。

(済生記者 米 素子)



き込まれました。終盤、猫たちが大ネズミを退治する場面では、「がんばれー」と応援したり、転がるネズミに大笑いしたりと大盛り上がりでした。

年8回開かれるお話の集いは、子どもたちの想像力や豊かな感性を育む大切な機会になっています。

〈石川〉金沢訪問看護ステーション

業所と訪問看護部)として発足。その後「訪問看護こそが看護の基本」をモットーに、地域

当施設は、9月1日に開設20周年を迎えました。地域ケア部(居宅介護支援事

施設と自宅の患者さんに添い続けて20年

〈愛媛〉松山乳児保育園  
消火器の使い方教わる

11月2日、消防士の立ち合いのもと、59人の園児と20人の職員で避難・消火訓練を行いました。

当園では毎月、さまざまな時間帯で避難訓練を行なっています。4〜12月は日時を決めて、1〜3月は不定期に予告なしの訓練を実施。そして年に一度、消防署が訓練の様子を見に来てくれます。

当日は避難訓練の後、園庭で消防士から消火器の使い方や、真剣に訓練を行なう姿を見て大きい子どもたちは「がんばれー」と手を叩きながら応援してくれました。

(済生記者 別府絵里)



2003年ステーション開設、病院の公用車で訪問開始!

2000年 2003年 2005年 2012年 2017年 2019年 2022年 2023年

外来所属地域ケア部 2000年に発足しました。

4代目訪問車は、ダイヤ・ミライースなどで色が揃っています。

大雪の日はスタッフも必死! 朝は車もカチコチに凍ります。出発直後に凍り付いて立往生!(リハさん)積雪で駐車できないお宅には2人体制で送迎して乗り切りました。

ユニフォーム新調 裏は4ボタンあります! カラフルになりました。

iPadの導入 紙面での記録廃止、電子化が進みました。

2代目訪問車はホンダのライフ、リハビリ部門スタート 最初は理学療法士1名から始まりました。

3代目訪問車ダイヤ・ミライースが可愛い!

2003年ステーション開設、病院の公用車で訪問開始!

2005年 2012年 2017年 2019年 2022年 2023年

リハビリ部門スタート 最初は理学療法士1名から始まりました。

済生会金沢病院忘年会 コロナ前は毎年大盛り上がり! 訪問メンバーで出し物をしていました!

言語聴覚士の訪問開始 新たに仲間が加わりリハビリは7名体制となりました。

金沢城リレーマラソン完走! フライバートも全力です!

この20年間でたくさんの出会いと別れがありました。

さようならで勉強会。今では人数が増え事務所も拡張しました。

明るい未来へ...



# topics

網の項目に「サイバーセキュリティ確保のための取組状況」が位置づけられました。この研修は、役職者に正しい認識を持ってもらうためのものです。

当日は小野稔晃警部補を講師に招き、医療機関におけるサイバー攻撃の被害状況、コンピュータを使った詐欺の手法、ラ



「サイバーセキュリティ」を管理職・事務職計35人に実施しました。

2023年4月施行の改正医療法施行規則では、診療所の管理者が遵守すべき事項に「サイバーセキュリティの確保について必要な措置を講ずること」が新たに規定。また、医療法第25条に基づく立入検査の検査要



静岡県障害者スポーツ協会の指導員2人を当センターに招き、11月14日、スポーツ巡回指導が行なわれました。

当日は利用者さん8人が参加うち5人は開催が間近に迫った静岡県障害者スポーツ大会に出場するため、出場競技のフライン

## 静岡県福祉センター成人部 スポーツ巡回指導で 競技の腕を磨く

ンサムウェアによるサイバー犯罪の現状などについて動画を交えて講義いただきました。

(鴻巣病院 事務部 當 幸弘)



## 山口 老健ひびき苑 新米おむすびと 秋野菜の豚汁に舌鼓

11月15日、「収穫祭」と銘打っておむすびと秋野菜たっぷり豚汁を作り、入所者さんとスタッフ、ボランティア総勢56人で一緒に昼食を楽しむイベントを実施しました。

おむすびに使用したお米は、地元で収穫された新米。入所者さんにも一緒におむすび作りを



## 香川県済生会病院

### 救急隊との交流会を再開

11月24日、救急医療交流会を当院で開催し、地域の消防隊員28人と当院職員38人が参加しました。

約5年ぶりの交流会は、若林久男院長の開会の挨拶に始まり、救急患者受入実績の報告と続いた後、岩城拓磨小児科部長が小児症例を発表しました。

日頃救急対応をしている職員「搬送先が見つかりにくい症状・症例はどのようなものがあるか」との質問には「精神疾患、多発外傷、複数科にわたる症例、夜間の頭部外傷、発熱、土日祝日と夜間、年末年始などの長期



休暇」と回答があったほか、活発な意見交換の場となりました。

最後に救急隊から「こうした場を設けていただいたことに大変感謝している。元気付けられ、心強い」との感謝の言葉をいただきました。

(済生記者 西山汐里)

## 埼玉県警察本部による サイバーセキュリティ研修

鴻巣医療福祉センターでは11月27日、埼玉県警察本部サイバー局による「サイバーセキュリ

ングディスク・アキュラシー5メートル(円盤を投げて5メートル先の入れる種目)の指導をいただきました。

最初はなかなか的に入りませんでしたでしたが、スポーツ指導員に手指の動かし方や力加減を指導してもらい、徐々に的に入るよ

## 新しい人工心肺が仲間入り 2台体制に

(東京) 中央病院

人工心肺装置を10月に新たに購入しました。人工心肺は心臓血管手術に欠かせない装置で、手術中に停止している心臓に代わり、全身に血液を送るポンプの役割を担います。

施行中でも緊急手術を受けられるようになりました。

(済生記者 鈴木香純)

今回購入した装置は、2種の血液ポンプと電子化された医療ガス供給システムを搭載。心臓血管手術の幅広い術式に対応できるようになりました。

また、もともと使用している人工心肺との2台体制になったことで、手術





〔神奈川〕若草病院  
子育てサロンの掲示に  
うれしいレスポンス

「済生」2023年8月号に掲載された、金沢地区子育てサロン「友だちつくるう」のお知らせ掲示の続報です。  
今回は「友だちつくるう」のクリスマス会のポスター（12月4日開催）を若草病院の敷地内2カ所とわかくさ保育園に掲示。さらに、同クリスマス会の開催



時に、当該サロンの対象である0〜2歳のお子さん向けのイベントとして、わかくさ保育園のクリスマス会のお知らせ掲示を行ないました。

すると、ほどなく参加の希望が。わかくさ保育園はもともと地域住民の方々に向けたイベントを開催していましたが、行政の子育て支援を通してのお知らせは初めて。地域交流に手ごたえを感じました。

（済生記者 高木裕子）

〔北海道〕小樽病院  
自動精算機2台導入で  
待ち時間半減

業務効率化を目的としたDXの取り組みの一環で、11月27日、アルメックス社製自動精算機を2台導入しました。

これまでは患者さんが会計窓口に着してから支払いが済むまで最大30分を要することもありましたが、現在は待ち時間が半分に短縮。

患者さんからは「待ち時間が短くなりよかった」との声がある一方、高齢化率40%を超える小樽では機械の操作に不慣れな人も多く「こんな精算機を入れ

て、親切ではない」とお叱りを受けることも。操作に困っている場面を見かけた際は、職員から素早く声をかけて対応するよう努めます。

（済生記者 松尾寛志）

滋賀県病院  
コロナの入院調整に貢献  
滋賀県知事から感謝状

滋賀県COVID-19災害コントロールセンターに係わる感謝状贈呈式が11月21日、大津市内のホテルで行なわれました。本センターは新型コロナウイルス感染症が拡大した2020年4月、患者さんの



療養先調整を目的に県が設置。約3年半にわたって救急搬送が困難になる事態や医療が逼迫する状態を防いできました。センターによる療養先の調整に貢献した人や病院、団体等に県から感謝状が贈られました。

式典には当院の三木恒治院長、越後救急救命センター長、若原聖徳救急外来看護係長、西川淳二画像診断科副技師長が出席。三日月大造滋賀県知事から感謝の言葉とともに、一人ひとりに感謝状が手渡されました。

（済生記者 西澤真由美）

〔兵庫〕特養ふじの里  
地域の相談窓口として

11月26日、有野台商店街・有野公園で開催された「ありの台マルシェ」に、当施設のありのあんしんすこやかセンターもブースの一画を借りて参加し、出張相談会を開催しました。

天気にも恵まれ、約30店舗の青空店舗やキッチンカーが並ぶ中、たくさんのお客さんがにぎわいました。行き交う人の中には「これから介護が必要になったときのために」と足を止めてセンターの案内を持ち帰ってくださる



人や、「年をとっても元気で過ごせるように」とフレイル予防に関心を持つ人も。これからも、困ったときの相談窓口として地域に根付いた活動を行なっていきたいと思います。

（ありのあんしんすこやかセンター 小俣文佳）

神奈川県病院  
祝！開院110周年  
記念イベントに500人超

開院110周年を記念した「フェスタなでしこ」を11月23日に開催しました。

院内エリアの各種相談ブースでは健康相談、介護相談、就業支援、ACPの啓発などを実施。就業支援ブースには多くの就労希望者が訪れました。

体験イベントは脳年齢チェック、BLS講習、アロマセラピー作り、医師のお仕事体験など盛りだくさん。子どもからお年寄りまで幅広い年代の人が楽しんでいました。地域のNPO法人や農家の方の販売ブースも大盛況で、お昼過ぎにはほとんど完売の状態でした。

そのほか、記念撮影コーナーやミニコンサート、長島敦院長

による講演、健康に関する講演も。500人を超える来場者が訪れ、大きなにぎわいを見せました。（済生記者 小山友輝）

（山口）豊浦病院

理学療法士2人が学会発表

10月8日に秋市総合福祉センターで開催された「第34回山口県作業療法学会」と、11月19日にスターピア下松で開催された「第32回山口県理学療法学会」で、高松晋太郎作業療法士と河野里帆理学療法士がそれぞれ取り組みを発表しました。

県レベルの学会発表は初めてで非常に緊張していた2人でしたが、経験者の指導やリハビリテーション科スタッフの支援により、無事に終えることができました。

「普段のリハビリテーションを根拠に基づき丁寧に実践する大切さを、発表を振り返ることで改めて感じた」と高松さん。河野さんは「患者さん一人ひとりが大切にしている作業を再びできるように、その人々に適した作業療法を行なっていきます」と話しました。

（済生記者 西田千鶴）



当事者の声をかしたアイデアが優秀賞

県立金沢北陵高校の生徒さんたちが開発している道具のアイデアが、日本福祉大学主催の「第20回福祉用具アイデアコンテスト」で優秀賞を受賞しました。指先に力が入らない人がふたを開けやすくする道具で、「らくるつくる」というもの。「手



が痺れてヨイグルトのふたが開けにくい」というがん経験者の声から生まれました。県産学連携事業として、福祉用具プラザや県リハビリセンターなどとともに石川県がん安心生活サポートハウスを利用するがん経験者を取り組んできました。「済生」2023年10月号掲載。

たちも喜んでいきます。  
〈石川〉金沢病院  
ハウス 看護師 木村美代  
〈兵庫〉小規模特養なでしこ 神戸  
〓 麺屋なでしこ、開店！

有馬の紅葉も一段と色を増し、秋の豊かな自然に囲まれるこの時期、看護小規模多機能型居宅介護なでしこ神戸多機能では泊まりの利用者さんに楽しんでもらえるように夕食会のイベントを行なっています。10月25日は、神戸にある有名なラーメン店のラーメンを利用者さん5人でいただきました。



「とても美味しかったわ」と食後も話が大きいに盛り上がり、めいめいが地元のひいきのラーメン店を思い出しながら笑みを浮かべ、「あそここのラーメンも美味しかったな」としばしラーメン談義が繰り広げられました。  
〈看護小規模多機能型居宅介護なでしこ神戸 介護副主任 兵頭達也〉

滋賀県病院

中学生チャレンジウィーク7人が病院の仕事体験

10月25日～11月15日の3週間、滋賀県の公立中学校で実施する職場体験「中学生チャレンジウィーク」として、近隣の中学校3校の生徒7人を受け入れられました。

生徒さんはそれぞれ3日間、ドクターヘリ見学、看護部、リハビリテーション技術科など、職種異なるさまざまな病院の仕事体験。

「病院の医療従事者が患者さんに対して気づいたことを発信し、共有しているのを見て、全力でサポートしようという思いが感じられた」「ドクターヘリやドクターカーに乗せてもらえて一



生の思い出になった」などの感想がありました。  
〈済生記者 西澤真由美〉

静岡済生会総合病院

自分や大切な人の命について考える機会に

11月28日、静岡市立東豊田中学校で岡本好史病院長が「がんに関する授業」を行ない、約200人の生徒が聴講しました。この授業は静岡市が平成29年度から取り組んでいるがん教育の一環で、子どもががんに対する正しい知識を学び、命の大切さについて理解を深めることを目的としています。どの生徒も熱心にメモをとり



ながら話を聞いており、「大人になったらタバコを吸ったり、お酒を飲みすぎたりしない」「家族にがん検診を勧めようと思え」といった感想がありました。  
〈企画・広報課 渡辺友美〉

〈岩手〉北上済生会病院 楽しく学ぶ防災×スポーツ

ウエスタンデジタルスタジアムきたかみで10月28日に開催された「いわてゴールデンドリー

ム2023「防災とスポーツの日」に、佐藤晃外来師長と中島幸江看護師長が救護班として参加しました。同イベントは東日本大震災から12年が経ち、震災を経験していない子どもたちに防災を楽しく学んでもらおうと企画されたものです。

当日は県内サッカーチーム所属の小学校6年生40人が参加。「津波避難グッズ」や「物資運搬リレー」なども交え、サッカー元日本代表の福西崇史氏、坪井慶介氏、岩淵真奈氏の指導を受けながら防災意識を高めました。

救護班の対応が必要なが人が人や体調不良者などもなく、笑顔あふれるイベントとなりました。  
〈済生記者 掛川千恵子〉

〈大分〉日田病院

消火までのタイムを競い 火災予防意識向上へ

11月21日、日田市危険物安全協会が主催する「第29回消防競技大会」が萩尾公園ソフトボール場で行なわれ、市内6事業所の21人が参加しました。当院からは職員3人が出場。



消火器を用いて火を完全に消火するまでのタイムを競いました。競技の前には、消防署の職員が消火を行なう際の注意点を演交じりに説明。風向きやホースを火の根本に向けることに注意しながら消火しました。それでも参加者が薬剤噴射の勢いや煙に驚く場面もありました。普段、滅多に扱うことのない消火器。当院職員も「初めて扱う」「扱いに不安がある」という状態で参加し、タイムは団体5位という結果に。実際に消火を行なうという今回の経験は、今後の防災対策に役立つ大切なものになりました。  
〈経理課 穴井稜子〉



# topics



## CFに挑戦 MRI装置買い換え

MRI装置買い換えのため、



〈宮崎〉日向病院

11月1日から12月25日までクラウドファンディング（CF）に挑戦しています。

当院のMRI装置は経年劣化に加え、故障時の修理部品供



給が3月で終了するという危機的状況にあります。これからも地域住民の命と健康を守っていくには、高額なMRI装置の買い替えが不可欠。そこで購入費用の一部である1000万円を目標に、CFで皆さんの協力を仰ぐこととなりました。放射線科を中心にプロジェクトチームを結成。他支部のCF経験施設からノウハウやアドバイスをもらい、応援ページや当院インスタグラム、ホームページでも呼びかけました。12月5日には地元のラジオ番組生放送に出演するなど、アグレッシブに活動しています。

（済生記者 村尾 愛）

## 〈滋賀〉栗東市葉山地域包括支援センター

### 「ミセン祭り」に3000人

10月14日と11月5日に開催された地域の秋祭りにブースを出展し、介護予防や認知症についての情報提供、消費者被害対策啓発、福祉用具展示、健康チェックなどを行いました。

栗東市は滋賀県下で最も高齢化率の低い自治体ですが、当センターが担当する葉山中学校区



内では50%になるところもあり、抱えている課題もまちまちです。ただ相談を待つだけでなく、常日頃から地域に出向くスタンスで業務に取り組んでいます。その積み重ねが実を結びつつあり、市民や専門職の皆さんから「葉山包括さん」と声をかけていただけるようになりました。

祭り全体での来場者は2日間で約3000人を数えました。  
（社会福祉士 柳原安里）

## 〈愛媛〉西条病院 4年ぶりの西条市産業祭

11月11日、県立西条農業高校で4年ぶりに開催された西条市産業祭に、当院から職員11人が

## 〈愛媛〉今治病院

### 4年ぶりの地域フェスタ 無料健康相談会に137人

11月5日、朝倉緑のふると公園で4年ぶりに開催された「朝倉ふれあいフェスタ」に参加し、無料健康相談会を実施しました。

コロナ禍以前は毎年の恒例行事として地域に親しまれていた市のイベントで、当院もなでしこプランの取り組みの一環として毎年参加してきました。

当日はスタッフ11人が参加。貧血や動脈硬化、骨密度の測定、看護師による健康相談を行いました。20代から80代まで幅広



11月20日、飯塚市役所本庁2階多目的ホールでフレイルサポーター養成講座が開かれ、当院の佐川優理学療法士が講演を行いました。

## 〈福岡〉飯塚嘉穂病院

### フレイルサポーター 養成講座で講演

11月20日、飯塚市役所本庁2階多目的ホールでフレイルサポーター養成講座が開かれ、当院の佐川優理学療法士が講演を行いました。

同講座は、飯塚市が推進しているフレイル（虚弱）予防に関する活動を支援するサポーターに応募した市民が対象。講座受講後、フレイル予防サポーターとして認定されます。

当日は10人が受講。講演以外にフレイルチェックの実技なども行なわれ、実践的な講座となりました。

（済生記者 春口勇介）

## 家族介護教室で MSWが講話

〈栃木〉宇都宮病院

11月15日、昭和地域コミュニティや栄養士に相談ができてよかった」「糖尿病のことがよくわかり、気を付けようと思う」などの感想がありました。

（内科医師 鳥美真幹）

参加しました。当院は平成25年から出展しており、今回で8回目となります。

当日は実行委員会の要請に基づき体験型ではなく、糖尿病専門医による健康相談・糖尿病関連パネル展示・防災グッズ展示、防災関連動画の放映など、見るもの中心の出展を行ないました。

いつもよりゆとりと展示を見ることができると参加者からは好評。「気軽に医師



テイセンターで行なわれた家族介護教室で、当院地域連携課の稲見一美課長（MSW）が講師を務めました。

宇都宮市では、介護者同士の

情報交換や交流を目的に「家族介護教室」を定期的に実施しています。今回は参加者12人を対象に、「病院との上手な付き合い方」と題して病院とクリニックの役割や機能の違いなどについて説明。かかりつけ医を持つことの大切さや急変時の延命治療等を含め、人生の最終段階をどう過ごすのかを考えておくことの大切さも伝えました。

（地域連携課 秋山綾香）



神奈川県病院  
学生ボランティア卒業

半年間、ありがとう  
5月から11月までの半年間、当院近くの大原医療秘書福祉保育専門学校横浜校から、学生ボランティアを1人受け入れました。医療秘書の勉強をしていた



安森由加さんです(写真中央)。安森さんの勤務は毎週水曜の午前中。当初の事は病院正面入り口で患者さん一人ひとりに挨拶することでしたが、慣れるにつれ、病院内の案内や受診の手続きなどもこなせるように。座学で学んだ医療制度や車椅子の操

作なども、患者さんと接する中で身に付けることができたようです。

他の医療機関への就職も決まりましたが、病院にとって貴重な戦力でした。安森さん自身も「得難い経験ができた」とのことです。(患者支援室 杉山 正)

〈愛媛〉松山老健にぎたつ苑  
排せつ支援強化を目指して

排せつケアの質の向上を目指し、当苑の介護職員4人、看護職員1人、訪問看護ステーション



ンなどでしこハウスの3人の職員が今年度から「アテントマイスタープロ」の資格取得研修に取り組んでいます。

同資格は大玉製紙が認定するもので、全7回の研修を受講してオムツやパット類の正しい選定・使い方、仕組み、褥瘡の要因を学び、学科・実技の試験に合格すると認定されます。

資格取得後は、他職員に排せつに関するアドバイス・提案・サポートを行ない、利用者さんの排せつ支援に役立てていきます。また、ご家族に対しても、安心して在宅復帰・在宅支援ができるようサポートしていきます。

(排せつケア向上委員会 田邊大輝)

〈大阪〉富田林病院

大阪で50回目の指導医ワークショップ

11月18・19日、全国済生会臨床研修指導医のためのワークショップが大阪市のクロス・ウェーブ梅田で開催され、全国の済生会病院から臨床研修指導医20人が参加しました。同ワークショップは平成18年

2月の開始から数えて今回で50回目です。当院の宮崎俊一院長が開催責任者を務め、福井県済生会病院内科部長の金原秀雄チーフタスクフォースをはじめ7人のタスクフォースを中心にワークショップを進行。指導医に



求められる知識と技術のためのグループワークを行いました。情報交換会では余興が久しぶりに復活、チーム対抗のゲーム大会なども楽しんでもらいました。第50回という節目の回の開催を当院が担当でき、印象に残るワークショップとなりました。(教育研修支援室 小谷知広)

あなたの写真が  
カレンダーに!!!



掲載写真を使ったオリジナルカレンダーを昨年中にお届け  
全国からたくさんの喜びの声をいただきました

済生記者のみなさん、ご協力いただいた職員のみなさんの活躍で、昨年もたくさんの写真が広報室に寄せられました。月刊「済生」、特に「Topics」はみなさんの原稿・写真に支えられています。昨年にも増してすてきな作品をお寄せください。お待ちしております。

すてきな写真をありがとう!! [koho@saiseikai.or.jp](mailto:koho@saiseikai.or.jp) そして、これからもよろしく。





研修会でインスリン計測体験  
患者さん目線で考える

〈茨城〉水戸済生会総合病院



11月29日、研修医を対象とした糖尿病関連の体験型研修会を開催しました。参加した7人の研修生は、インスリン計測のデモ機や血糖自己測定器を使用して、自分の指での血糖自己測定や、インスリンの針の着脱等を体験しました。体験を終え、参加者からは自己測定が想像より痛いこと、自己注射のたびに行なう空打ちが面倒なこと、インスリンデバイスの進化についてなど多くの感想がありました。患者さんが普段感じている恐怖や痛み、煩雑さを医療者として経験することは、これからの診療に確実に役立つものだと思います。今後は対象職種を広げつつ継続して開催していきたいと考えています。

（薬剤部 大串元気）

4年ぶりの健康講座  
子宮頸がんワクチン  
テーマに

山口総合病院

コロナが5類感染症へ移行したこともあり、11月16日、4年ぶりに健康講座を開催しました。当院産婦人科・古谷信三部長が講師を務め、テーマは「子宮頸がんワクチンについて」。院内へのポスター掲示や当院広報誌「Life」の告知により、当日は入院患者さんや地域住民30人が参加しました。終了後のアンケートには「知らないことばかりで、子どもや孫に教えてあげようと思う」といった声がありました。また、次回に取り上げてほしいテーマが記入され、参加者の健康に対する意識の高さがうかがえました。

（外来師長 池部麻美）

4年ぶりの文化祭に活気

〈三重〉明和病院

11月6・7日、4年ぶりに文化祭を開催し、職員や入院患者さん、デイサービスの利用者さんなどによる、個人24作品・団体3作品を展示しました。



コロナ禍で開催できなかった分時間に余裕ができ、出品者の一人は「細部までこだわり納得のいく作品ができた」と笑顔で話してくれました。ヘリコプターの模型を自分で色塗りし、羽根を自作した作品は逸品。操縦席の中で丁寧に色塗りされており、まばらに朽ちた色合いは本物のよう。制作に約4カ月かけたとのこと。

ほかにもレースやベストなどさまざまなジャンルの力作が並びました。会場は利用者さんや入院患者さんでにぎわい、コロナ禍前の活気が少し戻ったような気がしました。

（活生記者 藤岡拓人）

合同事例検討会  
ケアマネと看護師で  
情報共有交流の場

〈奈良〉ケアプランセンター  
すずらん

11月21日、奈良市内の他事業所のケアマネジャー5人を招いて合同事例検討会を行ないました。当日は奈良病院で入院支援



に関わっている看護師4人にも参加してもらい、入院時に家族が病院へ個人情報提供を拒んでいるケースについて検討。緊急時の連絡先や生活歴などがわからない、とりわけ高齢で独居の場合は対応に困るとい



う話が看護師からあり、「情報提供の大切さをご家族にわかっていただくにはどうすればよいか」「病院とケアマネが情報をスムーズにやりとりする方法」などについて、意見を出し合いました。

（介護支援専門員 関 悠妃）

地域へ発信！  
「嚙下」の出前講座

〈岡山〉吉備病院

近隣の石井谷町内会の皆さんを対象に、10月24日、出前講座を実施しました。テーマは「いつまでもおいしく食べられるようにく飲み込みに着目して」。当院の言語聴



覚士・坂口和馬さんが講師を務め、「食べる」という行為の大切さについて話をした後、年齢とともに衰えていく「嚙下の力」を鍛えるためのトレーニング方法を紹介。参加者17人の「喉年齢チェック」も行ないました。

実際の年齢よりも喉年齢が若いことがわかると表情が和らぎ、おしゃべりタイムになる場面も活発な意見も飛び交うなど、石井谷町内会の皆さんはとても元気な方が多い印象でした。町内会で定期開催されるサロンでは健康体操を取り入れ、今回紹介した嚙下トレーニングも行なっていたそうです。

（活生記者 難波美紀）

未来の医療従事者を育てる

〈三重〉明和病院

10月11・13日の3日間、中学生6人を対象に職業体験を実施しました。

当日は、看護師と同様のユニホームを着用し、指導者とともに病棟へ。足浴や車椅子体験のほか、医療技術部や介護施設・重症心身障害児施設の見学なども行ないました。安全感染研修では危険予知の考え方や手洗い

などの体験も実施しました。中学生たちは、初日は緊張していたて挨拶も小さな声でしたが、最終日は大きな声でハキハキと挨拶。患者さんに合わせた会話ができるように、笑顔も増



えました。「体験した医療や看護ケアを将来の職業の参考にしたい」とのコメントにも励まされました。

（副看護部長 西尾真由美）





〈愛媛〉小田特養緑風荘  
あったかクリスマス会

12月6日、当荘の入居者さん・通所者さん・職員の約60人が集い、クリスマス会を開催しました。

トナカイの角をつけた施設長

について地域の関係機関とともに情報共有や思案をするよい機会となりました。

(済生記者 小山友輝)



の挨拶でいきなり会場はほっこり。職員の息びつたりのハンドベルの音色を聴きながら、手作りのロールケーキを皆で食べました。

衣装をまとった利用者さんの歌謡ショーでは合唱が起こるなど、会場は大盛り上がり。最後は定番のサンタクロースが登場しプレゼントを配りました。中身を見て、「これ欲しかったのよ」「この色大好き」など、喜びの声が上がりました。

今回もご家族の招待はできず心残りもありますが、利用者さんとの絆が深まり、楽しいひとときを過ごしました。

(生活相談員 三浦祥道)

和歌山病院  
クラファン成功  
電動ベッド74台を搬入

当院は電動ベッド50台の導入を目標としたクラウドファンディング（目標金額1500万円）に成功し、300人以上から2000万を超えるご寄付をいただきました。

結果、予定を大きく上回る74台の電動ベッドを購入でき、3度に分けた各病棟への搬入作業を9月2日に無事終えました。

川上守院長は「患者さんやその家族、企業など、当院を取り巻く皆さまにこれほどの支援をいただいたことに驚いています。当院に対する激励と受け止め、職員一丸となってさらに安心安全な医療を提供していきたい」と感謝の言葉を述べました。

(済生記者 松元靖寿)

〈福岡〉大牟田病院  
「糖尿病と足」テーマに  
世界糖尿病デーイベント

11月14日は世界糖尿病デー。全世界で糖尿病の啓発活動やイベントが行なわれます。

当院でも11月7～14日の8日

間、糖尿病のシンボルカラーであるブルーに病院建物をライトアップ。11月14日には「糖尿病と足」をテーマに血糖測定・骨密度検査・体組成測定などの各種測定や医療相談会のイベントを実施し、地域の方51人が来場。内分沁糖尿病内科の医師や看護

神奈川県病院  
新興感染症を想定した訓練

新興感染症の発生を想定した訓練を11月15日に実施し、管轄の保健センターや地域の連携医



護師、理学療法士による講演やフットケアの体験コーナーも好評で、来場者からは「来てよかった」「勉強になった」との声がありました。

(糖尿病看護認定看護師 古賀寛子)

療機関の関係者など、延べ20人が参加しました。

「感染対策向上加算1」の施設基準では、地域医療機関全体が連携して感染対策を整えるために新興感染症発生等を想定した訓練を行なうことが必要とされています。

当日は、全身個人用防護具の着脱方法や患者の導線確認等を実施。訓練とはいえ、防護具を着用すると緊張感が自然と高まり、一般患者さんの近くを歩いたときには驚きを与えてしまう場面も。

設備の準備と備品の運用や保管方法、患者の導線等

〈三重〉介護老人福祉施設  
明和苑  
介護の日に  
メッセージカード

11月11日の「介護の日」、当苑の担当看護師から入居者さんやご家族に宛て、メッセージカードを贈りました。

新型コロナウイルス感染症が5類に変更になったとはいえ、まだ世間ではインフルエンザも含めた感染症が蔓延しており、当苑でもご家族の面会は一部制限を設けている状況です。

そこで、入居者さんにはねぎらいや励ましの言葉を、ご家族には日頃の生活状況などを記し、折り紙やシールも添付して報告しました。

カードが届いた皆さんからは「うれしい」「近況がわかり安心した」などの声をいただき、大好評でした。

(介護課長 森田 忍)

〈栃木〉宇都宮病院  
ドクターカー見学ツアー

11月18日、栃木トヨタ自動車主催の「防災救急フェア」が宇都宮市のミナテラスとちぎで開



かれ、約3500人が来場しました。

当院の医師3人、救命士2人が参加し、ドクターカーの機能や役割を紹介する見学ツアーを実施。

センター長の小倉崇以医師が「栃木県救命救急センターは、高度な救急医療を提供し、今後も地域の皆さまに貢献していきます」と意気込みを述べました。

来場者は普段は入ることのできないドクターカーの内部に熱い視線を送っていました。

そのほか、会場では停電時に車から給電ができる電源供給システムの展示や高所作業車に乗る体験も。大盛況で幕を閉じました。

(済生記者 川原彩花)



〈宮崎〉日向病院

患者さんを明るくする魔法

回復期リハビリテーション病棟で10月31日、約30人の患者さんとスタッフでハロウィーンパーティーを行いました。  
患者さんはスタッフ手作りのカボチャの帽子やパーティーゲ



ップで着飾り笑顔に。スタッフもそれぞれ仮装し、ショーでダンスなどを披露して会場を沸かせました。  
ショーの後は、スタッフと患者さんでお菓子釣り大会。釣り上げたお菓子はパーティー締め

くくりのお茶会で仲良く食べました。

「入院中にこんな楽しい催し物があるなんてほんとに気分が上がる。楽しかった」と患者さん。病は気からといわれますが、この日はスタッフが患者さんに「気持ち明るくなる魔法」をかけたようでした。

（済生記者 村尾 愛）

〈栃木〉宇都宮病院

健やか親子21全国大会で土谷医師が登場

11月9・10日、栃木県総合文化センターで「健やか親子21全国大会」（母子保健家族計画全国大会）が開催され、全国から母子保健に関わる行政保健師や医療関係者約200人が参加しました。

当日は、土谷美和産婦人科医長がシンポジストとして登壇。宇都宮市内の特定妊婦、要支援妊婦の約半数を受け入れている当院での取り組みを報告し、症例の把握や支援体制、院内と関係機関との連携体制などを提示しました。

参加者からは「院内での多職種による取り組みの工夫がわか



りやすく、連携や母親支援の大切さが勉強になった」との感想がありました。

（地域連携課 秋山綾香）

〈滋賀〉栗東市葉山地域包括支援センター

「生き方カフェ」で市民にACP啓発

市民向け講座「生き方カフェ」を10月31日に開催し、約40人が受講しました。

この事業は栗東市介護者の会との共催で毎年実施しており、今回で44回目。当センターの企画で「看取りの形は十人十色」と題し、これから受ける医療や

〈神奈川〉金沢若草園支援学校のPTAが就労継続支援の現場を見学

12月6日と13日、神奈川県立支援学校小学部・中学部のPTA役員6人と支援学校の先生1人の計7人が当園を見学に訪れました。

就労継続支援A・B、生活介護を合わせて65人の利用者さんが利用しています。見学の皆さんにはクリーニング工場での受け入れの入荷出荷パード



処理、クリーニング作業の各工程を見てもらいました。

当園は横浜市東部病院、神奈川県川原病院、若草病院といった県内の済生会病院から、白衣等のクリーニング作業を請け負っています。障害のある人々に就労の機会を提供するとともに、働くためのスキルが身に付くよう支援しています。

（支援課 日高 純）

〈兵庫〉小規模特養なでしこ 趣向を凝らした運動会

11月16日、入居者さん29人と職員11人が参加し、恒例の秋の運動会を開催しました。

選手宣誓と聖火台への聖火点灯のオープニングを経て、運動会がスタート。従来のパン食い競争や玉入れに加え、職員がモグラに扮する「モグラ叩きゲーム」、野菜などをいかに早く送り合うかを競う「物送りゲーム」を新たに実施しました。

昼食には名古屋屋名物「味噌カツ弁当」がふるまわれ、皆さん運動会への意気込みが増した様子。

趣向を凝らした競技に、入居



者さんは皆大笑いしながら楽しんでいました。毎日のリハビリの成果を披露することができた運動会でした。

（ユニットリーダー 高木政幸）

〈埼玉〉加須病院

ドクターカーのユニホームが完成!

9月1日から試験運用し、11月1日に本格運用を開始した「ワークステーション型ドクターカー」専用のユニホームを作りました。

救急車内の狭い空間で処置を



や体液が衣類に付着する可能性があるため、ユニホームの素材は、軽くてストレッチ性があり、かつ撥水性が高く手入れがしやすいといった機能が求められます。  
今回導入したMA-1型のウェアはこれらの特長を網羅。さらに、夜間でも見える反射板や医師・看護師を見分けるワッペンがついており、救命医療の現場でも安全に活動ができるように工夫されています。  
スタッフからは「素材も柔らかく動きやすい。ポケットが多く収納力が高いのが良い」と大好評です。

（済生記者 蓬田絵里子）



京都済生会病院

ガラシヤ祭にブース出展  
過去最多173人が来場

11月12日に開催された「長岡京ガラシヤ祭」に3年ぶりに出展しました。

当日は、当院のイベント部隊である魅力・ブランドづくりプロジェクトメンバー20人を中心に、看護部の応援スタッフと「血管健康度測定」「ストレスチェック」を実施。過去最多の173人が体験しました。

また、今回は二つのアンケートを実施。「済生会は全国組織



であることを知っていますか」では「はい」85人(93%)、「いいえ」6人(7%)、「わかりつけ医を持っていますか」では「はい」107人(80%)、「いいえ」26人(20%)という結果でした。

ブースを訪れた市民からは「地域の基幹病院が出展しているのにびっくり」などの声がありました。

(魅力・ブランドづくりプロジェクト事務局 松岡志穂)

山口総合病院

4年ぶりの院内研究会  
動画撮影など新しい試みも

11月21日、院内医療マネジメ

年生4人が職場体験学習で当院を訪れました。

スタッフ同様、ユニホームを着用しネームカードを掲げ、12時から3時間半にわたり栄養科、病棟、リハビリテーション科、放射線科での職場体験を行いました。

実習後のお手紙には「実習が終わり、興味を持っていた職種が変わった」「働くことの大変さや、やりがいを学ぶことができた」「これからの進路に生かしたい」「患者さんを元気に安心して退院できるような支援に感動しました」といった感想が寄せられました。

(看護教育課 本多純子)

新潟病院

ごはんコンテスト全国へ  
郷土料理を現代風アレンジ

当院栄養科チーム2人は、11月19日に服部栄養専門学校で行なわれた「第6回ご当地タナタごはんコンテスト全国大会」に出場しました。

当日は予選を勝ち抜いた全15チームが試食だけでなくレシピの説明など、地域性を生かしたプレゼンテーションを行ないま

ント研究会を4年ぶりに開催しました。

コロナ禍前は土曜日に行なっていました。今回は平日夕方にコンパクトに実施することになり準備を進めました。

当日は約80人の職員が参加。5人の演者が学会のカテゴリ分類に沿って所属部署・チームの成果や課題、今後の目標について発表しました。

また、参加できなかった人も後日視聴できるように、ビデオ撮影を行ないました。

参加者からは「医療の質の向上に努め、より良い医療を提供できるように頑張りたい」「別の部署の仕事を知ることができた」「新しい発見があった」など前向きな意見がありました。

(済生記者 雷永政治)

滋賀県病院

健診センターに  
高性能X線TV装置

日本財団の助成金(競艇の交付金による)を受け、10月30日、健診センターに新しいX線TV装置を導入しました。

これは、食道や胃など上部消化管のがん発見



を目的にX線造影を行なう装置で、従来に比べて低被曝線量で高画質撮影が可能。高齢者健診も視野に入れ、検査寝台周りの安全性確保、逆傾斜撮影など多彩な撮影環境にも適応しています。今後は骨密度測定(スクリーニング)も可能となる予定です。

本装置を積極的に活用し、病気の早期発見と早期治療に役立てていきます。

(済生記者 西澤真由美)

〈神奈川〉湘南平塚病院

中学1年生が職場体験  
働く大変さ・やりがいを学ぶ

11月15日、平塚市内の中学1

した。

当チームは勝負メニューとして、新潟の郷土料理「車麩の煮物」を大胆にアレンジした「車麩のカツ丼」、そして「かきあえなます」をサラダに、「いごねり」をデザートにアレンジしたレシピを考案。

惜しくもグランプリは逃しましたが、全国の郷土料理を知り、新潟の魅力を改めて考える機会となりました。

(栄養科 治田麻理子)

済生会肝臓共同研究グループ  
神戸市でSLSG全体会

第31回日本消化器関連学会週間(JDDW)が11月2〜5日、神戸市のコンベンションセンターで開催されたことに合わせ、3日に今年度2回目のSLSG(済生会肝臓共同研究グループ)全体会が同市内で開催されました。

SLSGのメンバーはJDDWへの参加時間との調整をして、全体会で顔を合わせました。開会が朝8時からと早朝でしたが、全国から9人が出席。



SLSGのページ



各研究についての進捗状況と問題点について活発に意見を交換しました。

なお、当グループの活動が本部から評価され、済生会ホームページ「専門的活動グループ」のコーナーに当グループの専用ページができました。ぜひご覧ください。

(岡山済生会総合病院 主任医長 川上万里)





# topics



4年ぶりに入居者さんのご家族を迎えての開催となった今回は、プログラムも盛りだくさん。ドキドキ玉入れ、ボール迷

路、職員・ご家族混合綱引きなどで盛り上がりました。県立科学技術高校応援指導部によるはつらつとした応援披露などもあり、まさに4年間の思いがギュッと詰まった運動会に

## 〈奈良〉御所病院 園児との交流が復活

11月17日、地元の恵愛保育所の園児5人が、医療従事者への



感謝の気持ちを込めて当院にたくさん新鮮な野菜や果物を届けてくれました。

これは収穫感謝祭の一環で、同保育所の恒例行事でしたが、コロナの感染対策もあって今回は2年ぶりの実施でした。「いつもありがとうございます！」「すー」という園児の元気いっぱいの挨拶と笑顔に、その場に居合わせた患者さんや職員全員がやさしく温かい気持ちに包まれました。

コロナはさまざまなところに制約や影響を与えましたが、こうして園児と触れ合う機会が再開したことはうれしい限りです。

（事務部長 田中 隆）

## 〈岩手〉北上済生会病院 防災リーダー養成研修で 台風被災体験を講演

「介護施設等防災リーダー養成研修」が10月3・4日、愛知県蒲郡市で開催され、参加者109人を前に筆者が講演を行いました。

この研修は、激甚災害の発生に備えて介護施設等の職員が防災に関する必要な知識を習得するためのもので、愛知医科大学



なりました。

（介護サービス課 遠藤 司）

## 〈大阪〉中津病院 中学生にがんの授業

12月8日、下福島中学校の2年生約200人に向けて、乳腺外科部長・がん診療支援センターの吉村慶子副センター長が「がんの教育」として授業を行いました。

大阪府が推進するがん教育の一環で、当院としては2度目です。難しい話にも真剣に耳を傾けてくれた生徒たちに、吉村先生は最後にこの言葉を贈りました。「つらいこと、苦しいことは助けてもらいながら、生きる力を

災害医療研究センターが愛知県から委託を受け実施しています。筆者は事例紹介として、当時勤務していた特養百楽苑での経験をもとに、台風10号（2016年）の被害と対応についてお話ししました。

そのほか、愛知県の災害史や南海トラフ地震、BCP（事業継続計画）などについて専門の講師陣の講義やグループワークが行なわれ、参加者の多さからもテーマへの関心の高さが伺えました。

（済生記者 掛川千恵子）

## 香川県済生会病院 フードバンク事業等で 若林院長に感謝状

11月28日、第67回高松市社会福祉大会が高松市のレクサムホールで開催され、社会福祉事業協力者として若林久男院長が感謝状を授与されました。

当院では、令和3年度からソーシャルインクルージョンの一環としてフードバンク事業を行なっています。職員宅で不要になった食品や賞味期限の近づいた病院の非常食を、香川県社会福祉協議会や自立相談支援セン



身につけて唯一無二の素敵な人生を歩んで、自分のことも周りのことも大切にしてください」

（がん診療支援センター事務局 浦田亜紀子）

## 〈長野〉佐久市特養 シルバーランドきしの 帰ってきた 「およりなんしきしの」

11月28日、3年間中止していた認知症予防教室「およりなんしきしの」を再開しました。

以前は毎月25人程度の参加者が集う人気の教室でしたが、あまりに久しぶりのせいから、回覧板を回したものの少人数に。そ



れでも地区の民生児童委員さんの声かけもあり、復活の兆しが見えてきました。

もちろん顔馴染みの参加者も。「久しぶり」のあいさつから始め、「きよしのズンドコ節」と「365歩のマーチ」で元気を体を動かしました。最後は太鼓を使ってリズムを刻み、互いに協力しながら「妨害しながら？」シート玉入れゲームで大興奮！体も頭も心も使って、心地よい疲労が残りました。

（済生記者 野沢景子）

ターたかまつを通じて寄贈しています。

寄贈した食品は生活困窮家庭や、高松市社会福祉協議会が実施する学習支援教室に参加する子どもたちに配布されています。今後も職員に提供を呼びかけ、「もったいない」を「ありがとう」へ換えるフードバンク活動を続けていきます。

（地域連携室 松浦妙子）



〈静岡〉特養小鹿苑

## 4年間の思いがギュッと詰まった運動会

小鹿苑特養部の運動会を10月29日、静岡済生会看護専門学校体育館で開催しました。参加者は入居者さん64人、ご家族56人、県立科学技術高校応援指導部16人（生徒14人、教員2人）



# 載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介しします

## トルコ・シリア地震における災害支援活動を振り返って

滋賀県病院救急外来看護係長 若原看護師

広報誌「ナースレイク」160号  
/ 2023年10月(滋賀県看護協会)

の巻頭記事「一番星見つけた!」に、当院救急外来看護係長の若原聖徳看護師が「トルコ・シリア地震における災害支援」を寄稿した。  
2022年2月6日に発生したトルコ・シリア地震における災害支援

## 大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも、ご報告ください

### 110周年記念

#### 「フェスタなでしこ」の裏側で……

今号で紹介された「フェスタなでしこ」(P51)で、私は広報係として写真・動画撮影を担当。前日準備



動画の編集

から当日の様子を撮影して回りました。フェスタ後は院内で懇親会(打ち上げ)が行なわれ、乾杯の音頭から各テーブルの楽しそうな歓談シーンを撮影。そして、こっそりと会場を後に……

実は、撮影後すぐさま動画編集を進めていて、結婚式で見えるようなエンディングムービーを懇親会で流すサプライズを計画していたのです。

最後の編集を終わらせ、無事に懇親会で披露することができました。まさかの当日編集に驚きと感動の声があり、皆が喜んでくれたことが何よりうれしかったです。

(神奈川県病院 済生記者 小友友輝)  
★済生会に必要なのはスピードと常々、思っています。特に広報に

こと。

草履を作っているご主人の娘さんにこのことを伝えると、「本人の張り合いになると思います。これからも草履製作を頑張れる」とうれしそうでした。

(愛媛・今治老健希望の園)

済生記者 伊藤君香

★草履いろんな柄があつてすてきですね! どんな履き心地なのか気になります。(本部広報室 杉山菜央)

#### おそろいのTシャツでぐんまマラソンに参加

前橋市で11月3日に行なわれた第33回ぐんまマラソンに、群馬県済生会の職員23人に参加してきました。



デザインしたチームTシャツを制作し、当日は参加者とその家族で着用。おそろいのTシャツを着ることで一体感が生まれ、仲間の声援にも力が入りました。

三つのコースの中で、私は約4キロのリバーサイドジョギングに参加。快晴の中、利根川を横目に気持ちよく完走することができました。

(群馬・前橋病院 済生記者 川上佳代)

★学生の頃、体育祭用に皆でデザインした「ククラT」を思い出しました。最高のランだったことでしょうか……。

(メディカル・リーフ 富谷咲希)

#### 皆さん、ナイスランです!

青空の下、12月3日に第41回川口マラソン大会が開催されました。川

について、国際緊急援助隊(JDR)の成り立ちやサプライセンター部長として活動した現地の様子などが綴られている。最後は、活動を行なうにあたり得られた周囲からの協力・支援に対する感謝の言葉で締めくくられている。  
本誌は滋賀県看護協会のウェブサイトで公開  
「ナースレイク」Vol.160  
[QRコード]

とつては迅速こそ第一かと……素晴らしい! (本部広報室 山内 敦)

#### 手作りの草履、海外へ!

11月のある日。(愛媛 希望の園のデイケア利用者さんが、1階の一面に展示している草履を見て声をかけられました。



「あの草履、10足ほど売ってくれなideしでしょうか?」

実はこの草履、当園の入所者さんのご主人が、いらなくなった布を使って自宅で作っているもの。たくさんあると聞いて、ご家族にお願いして10月29日の済生会フェアで展示・販売させてもらっていました。声をかけてくれた利用者さんは、フェアでの展示を見て気になっていたのでした。なんでも、海外で生活しているお孫さんに送りたいとの



口総合病院からは佐藤雅彦病院長をはじめ職員63人が参加。それぞれの希望コース(ハーフ・10キロ・3キロ・2キロの4コースあります)で全員完走しました。  
自作の推し活風うちわと、当院ののぼり旗を持って駆け付けた職員たちも元気に応援。のぼり旗を見て「済生会病院さんだ!」「いつもお世話になってます」と走りながら叫んで



くれる人、わざわざ立ち止まり「泌尿器科でお世話になってます」と伝えてくれる市民ランナーさんもいて、多くの地域の方々と交流するうれしい機会にもなりました。

撮影&応援部隊で参加した私も、ランナーさんたちの一生懸命走る背中や、苦しいにもかかわらず声援

覧が可能。ぜひ読んでいただきたい。(済生記者 西澤真由美)



に笑顔を返してくれる姿に、ものすごく元気をもらいました!

(埼玉・川口総合病院 済生記者 原 衣里奈)

★次回は原さんもランナーでぜひ参加し、走りながら応援団の撮影に挑戦してみてください。その絵、待っていますよ。(本部広報室 山内 敦)

#### 勤続30年の節目に思う

10月の病院報に永年勤続者が掲載され、30年の欄に私の名前があり







を上回る約500人が乗車（すごい!!）。子どもたちが喜ぶ顔を思い浮かべながらプレゼント用のお菓子をたくさん準備して臨みましたが、開始から3時間ほどでなくなり、終了となりました。子どもたちの「チョコばっかりはなあ……あ！揚げ豆だ」との反応には、頑張っただかいがあったとニヤリ。

また、「済生」2022年12月号のトビックスに記念写真が掲載された親子連れが今回も来てくださるといふ、うれしい再会も。



毎年の恒例行事として、地域の方との触れ合いを続けていくことへの使命感を感じました。目指せ！1000人乗車！

（長崎病院 済生記者 平川幸子）

★わあ、仮装した救急車、大人気ですわね！来年はこっそりうちの子も連れて行こうかしら？（笑）

（大空出版 比木 暁）

### 悲願のシルバーメダル

日田病院には、実はこっそりと活動している卓球クラブがあり、11人のメンバーが月1回集まり汗を流しています。

11月23日は全九州医療チーム卓球選手権大会。中級者クラスでの団体戦参加は5回目ですが、卓球経験者がそろわずブービーや最下位に甘んじてきました。今回は新たに入職した経験者がチームに加わり戦力が強化。なんと1準優勝することができました。



私は残念ながら大会前に肩を脱臼してしまい、ベンチコーチとしての参加でしたが、出場メンバーからメダルをもらい感無量でした。

今回は初心者クラスでも参加。数回のみ練習で試合に臨み全敗も覚悟していましたが、若さとセンスが相まって11チーム中7位と善戦！

部署を越えて交流ができる貴重な

### （大分・日田病院 総務課

★準優勝おめでとうございます！  
職種、世代を越えて一緒に汗を流せ



る仲間がいるってすてきですね。

（大空出版 後藤藍子）

### 人生最高の一日

人生の最終段階を迎え、10月に入院したAさん。皆が暗れやかな気持ちになれるよう、奈良病院の中庭にチューリップを植えてほしいと希望していました。

しかし、病状の進行とともに体力が衰え、自分のことができなくなってくる、「早く逝かせてほしい」と漏らすように。そして「10月中に球根を植えないと4月に花が咲かない」と焦りやいら立ちを見せるようになりました。

そこで、Aさんの希望を叶え尊厳



する機会もめっきり減りましたが、ロッカーには常にけん玉を忍ばせ出演機会を伺っています。もちろんオファーがあれば県外へも出向いてくれると思いますので、ご興味のある方はぜひお問い合わせを！

（広島・老健はまな荘 済生記者 佐藤 聡）

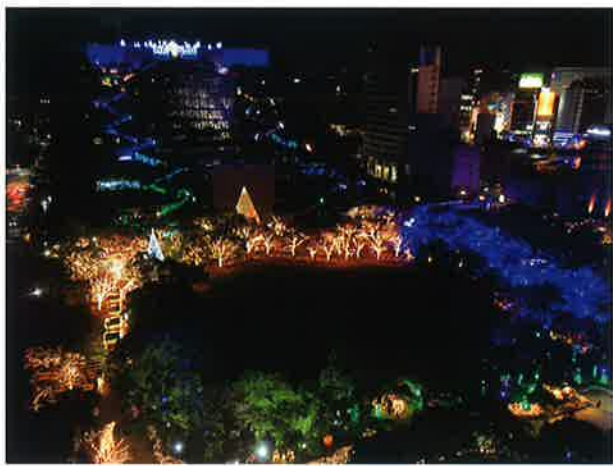
★小学生の頃学年でけん玉大会があったのですが、なかなか基本技もできなくて……うらやましいです。

（本部広報室 杉山菜央）

### 救急車もハロウィン仕様

長崎病院は10月28日、地元・新大工町商店街のハロウィンパレードに参加し、救急車の乗車体験を行いました。

仮装したハロウィン仕様の救急車は大人気で、前年の350人



この季節の当院のお楽しみ

福岡総合病院に隣接する天神中央公園は、11年目を迎える福岡の冬の風物詩「クリスマスアドベント」の会場の一つ。11月中旬からイルミネーションが灯り、公園北側の複合施設・アクロス福岡のイルミネーションと併せて、心温まるライトアップが地域を照らす光となっています。

★永年勤続30年おめでとうございませう。長い間済生会で働いていただき感謝いっぱい、尊敬です。

（本部広報室 杉山菜央）

（岡山・吉備病院 業務課 山本朱美）



ました。後日、スタッフが「勤続30年なんですわね！ビックリしましたー」と声を掛けてくれました。……ビックリしたのは30年も勤めたこと？年齢？確認するのは気まずく「ありがとう！」と満面の笑みで返事をしました。

振り返ると、勤続26年目に念願の受付業務への異動が決まったときは、不安もありましたが心が躍りました。15年目の頃、受付業務希望と上司に伝えた際に「受付は若い子かな」と言われたことを思い出し、顔がニヤリとなりました。

たくさんの人とのうれしい出会い、悲しい別れ。その一つひとつが私の心の支えになっています。

「あなたに相談してよかったわ」と言っていただけに笑顔で、これからも患者さんに寄り添い、困りごとを解決するお手伝いを精いっぱい





り、やっぱり気持ちがあります。  
(メディカル・リーフ 坂本陽子)

**力作！ マリオかかしが銀賞に**  
熊本市南区の天明地区で毎年恒例となっている「天明かかしコンテスト」

12月10日、(東京) 中央病院の医師たち18人3チームが川崎国際駅伝に参加しました。

市民駅伝最高峰を謳う大会で、今回は総勢263チームがエントリー。多摩川河川敷を舞台に、フル

「ト」。コロナ禍で中止や展示のみの開催が続いていましたが、4年ぶりの通常開催となりました。11月3日から2月18日まで、国道501号線沿いの田んぼに30体ほどのかかしが展示されています。

熊本福祉センターからは、世界中で愛されているキャラクター「スーパーマリオ」のかかしを出展。職員4人と利用者さん4人で協力して制作しました。利用者さんには顔のパーツや旗などの細かな色塗りを担当してもらい、大好評のかかしを完成させることができました。

コンテストの結果、なんと銀賞を受賞！ 来年も職員と利用者さんで一致団結し、金賞を目指します!!

(熊本福祉センター 済生会かがやき生活支援員 福本菜々香)

★スーパーマリオのかかし！ パツと見かけたときに、目を引きますね。銀賞素晴らしいです。次も期待です。  
(大空出版 兼本美折)

**診療科や年齢の枠を超え、タスキをつないで一体感UP**

12月10日、(東京) 中央病院の医師たち18人3チームが川崎国際駅伝に参加しました。

マラソンの距離を7人でつなぎます。また、ハーフマラソンの距離を3人または4人で走る種目(ハーフ駅伝)もあります。



診療科や年齢を超えたつながりも生まれ、病院内での一体感が高まったことを実感。「次回も参加するぞ」



当院の男子2チームはそれぞれ3時間16分14秒(96位)、3時間21分53秒(105位)と前回参加1チームの3時間33分42秒を両チームとも大きく上回る結果となりました。女子チームはハーフ駅伝を4人で走り、1時間57分20秒(10位)と奮闘してくれました。

**次号予告**

**済生** No.1136 [令和6年2月号]

済生会の不易流行論 (185) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 谷 真海

口福にっぼん (77)

紅玉のアップルパイ (青森県弘前市)

てづくりおもちゃ いまいみさ

を守ることを担当医・病棟看護師と検討。急ピッチで庭の花壇の土を整備し、Aさんが自分でできることを支えることで、Aさんの笑顔が増えています。

10月末にはAさんの夫も参加し、多職種協力のもと、念願の球根を



植えることができました。「人生最高の一日となりました」と満面の笑みのAさん。

1週間後、Aさんは最期まで笑顔を絶やさず、何度も「ありがとう」の言葉を残し、旅立ちました。  
(奈良病院 緩和ケア認定看護師 金井恵美)

★スタッフ一人ひとりに手を握りな

から感謝を伝えてくれたそうです。希望のチューリップ、カいっばい咲きますように。

(メディカル・リーフ 富谷咲希)

**黒枝豆の収穫の喜びを皆へ**

病院の裏庭で栽培した黒枝豆の収穫の喜びを、より多くの人と分かち合いたい！ そんな思いで企画したのが「黒枝豆のパウンドケーキ」。

(岡山) 吉備病院の片岡瑛子・大山益枝管理栄養士、日清医療食品さんの協力のもと、10月27日に入院患者さん・透析患者さん・当日勤務の職員合計200人分を製作。入院患者さんの状態に合わせて調整し、3時のおやつにサブライズで振る舞うことができました。

お皿の横には、難波洋一郎院長か



らのメッセージを添えて。皆さんとても喜んでくださり、看護師を通して「とても美味しかったです、ありがとうございます」とのお礼の言葉が業務課に届きました。

職員には個包装で配布。秋の収穫を皆で味わうことができた喜びと企画に協力してくれた皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。

(岡山・吉備病院 済生記者 難波美紀)

★黒枝豆の続編が！ 院内に広がるあたたかい心配りに、読んでいてとてもうれしい気持ちになりました。  
(メディカル・リーフ 坂本陽子)

**病院にクリスマスを再び！**

5年ぶりのツリー点灯  
ボランティア委員4人が中心となり、11月24日、病院の正面玄関エントランス付近にクリスマスツリーを設置しました。今年は外からも見えるように、窓ガラスのロールカーテンを開けてあります。

来院する皆さんに季節感を届ける

ことが目的ですが、感染症が猛威を振るう中で長らく実施が見送られてきました。5年ぶりに姿を現したクリスマスツリーはホコリだらけ。心を込めてきれいにし、飾り付けていきました。心配されていたLEDライトも無事点灯。病院の雰囲気が一瞬と明るくなりました。

来院する皆さんに一瞬でもクリスマスの喜びと温かさが伝わりたくらいです。ツリーの輝きが病院全体



に広がり、今年のクリスマスが誰にとっても楽しい思い出となりますように。  
(神奈川・湘南平塚病院 済生記者 川崎菜美)

★ブルーのライトがきれいですね。一年の終わりを彩るクリスマスツ



# より安心して 出産を迎えられる 快適な空間を提供したい



目標金額 **1,000万円** 2023年12月4日から2024年1月31日まで

龍ヶ崎済生会病院がクラウドファンディング挑戦中！

## 龍ヶ崎済生会 | 安心であたたかなお産のため 産科病棟に快適な空間を！

※本プロジェクトはAll or Nothing方式のため、募集終了日までに目標金額に到達しなかった場合、いただいたご寄付は返金いたします。

龍ヶ崎済生会病院は、22診療科を有する地域の中核的な機能を持った「地域医療支援病院」です。龍ヶ崎市内では出産ができる唯一の施設（2023年11月時点）として妊娠から出産、産後、その後の小児科での対応まで一貫通貫した体制を持つ病院です。

しかしながら、開院から20年以上経ち、施設面での老朽化が目立ってまいりました。また、龍ヶ崎市をはじめ近隣地域の出産件数も減少傾向にある現状を受け、“妊婦さんやそのご家族に選んでいただけるような、もっと安心して出産できる快適な環境にできないだろうか”と考えました。

そこでこの度、済生会本部からクラウドファンディング挑戦への応援もあって「LDR室」の導入に向けたクラウドファンディングに挑戦することを決めました。

LDRとは「Labor（陣痛）・Delivery（分娩）・Recovery（回復）」の頭文字を取ったものです。陣痛から分娩、産後の回復までを同じ部屋で、安心できる人（家族）と過ごせるため、より安心して出産に臨むことができます。

地域の中核病院として、出産やその後の健康を支えながら、地域の皆さまとともに笑顔と活気があふれるまちを目指していきたいと考えています。

ご賛同いただける皆さまからのご寄付をどうぞよろしくお願いいたします。

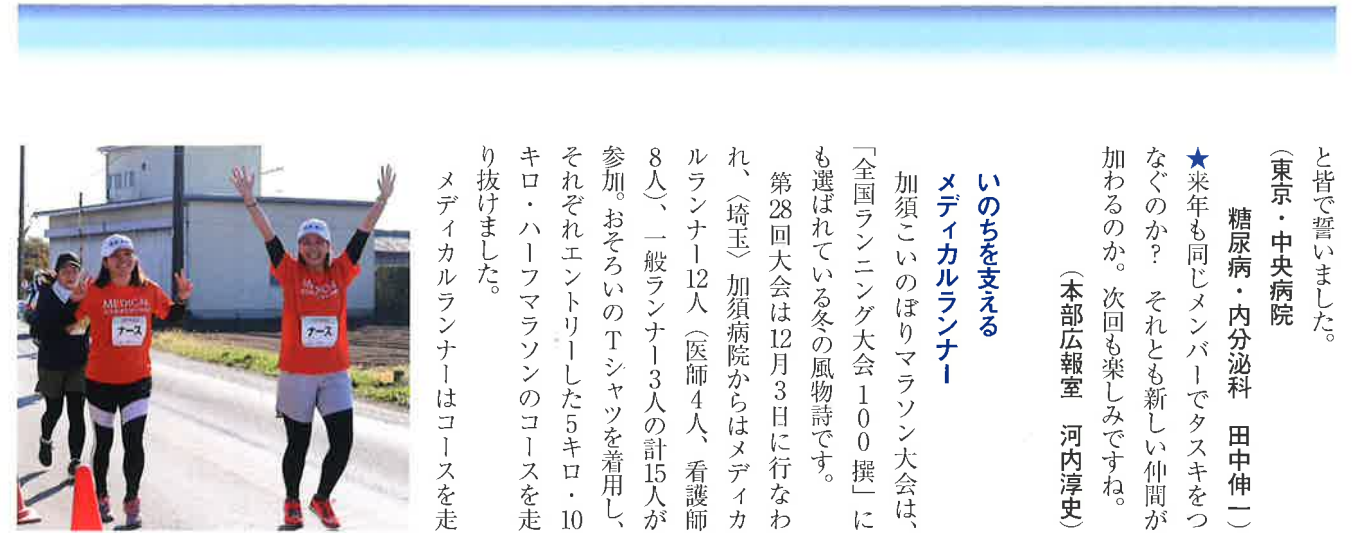


龍ヶ崎済生会病院 レディーフォー



インターネット上での手続きが難しい場合は、龍ヶ崎済生会病院 クラウドファンディング担当者まで直接ご連絡ください。EMAIL : crowdfunding@ryugasaki-hp.org TEL : 0297-63-7111(代)

<https://readyfor.jp/projects/ryugasaki-saiseikai>



と皆で誓いました。  
(東京・中央病院)

★来年も同じメンバーでタスキをつなぐのか？ それとも新しい仲間が加わるのか。次回も楽しみですね。  
(本部広報室 河内淳史)

いのちを支える

メディカルランナー

加須こいのぼりマラソン大会は、「全国ランニング大会1000撰」にも選ばれている冬の風物詩です。

第28回大会は12月3日に行なわれ、(埼玉) 加須病院からはメディカルランナー12人(医師4人、看護師8人)、一般ランナー3人の計15人が参加。おそろいのTシャツを着用し、それぞれエントリーした5キロ・10キロ・ハーフマラソンのコースを走り抜けました。  
メディカルランナーはコースを走



りながらランナーを見守り、傷病者への初期対応などを担います。辛い対応を要する事態もなく、無事に大会を終えることができました。

絶好のマラソン大会日和の中、沿道から「加須病院がんばれ！」と声援をいただき、メディカルランナーの励みになったようです。  
(埼玉・加須病院 済生記者 蓬田絵里子)

★大会の影に「メディカルランナー」あり！さまざまなか所で地域の安心を支えているのですね。  
(大空出版 後藤藍子)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療救済による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日、済生会を創立した。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下  
会長 潮谷義子  
理事長 炭谷 茂  
本部Ⅱ東京 支部Ⅱ40都道府県  
病院 81  
診療所 20  
介護医療院 2  
介護老人保健施設 28  
救護施設 1  
児童福祉施設 25  
老人福祉施設 120  
障害者福祉施設 9  
看護師養成施設 7  
訪問看護ステーション 64  
地域包括支援センター 31  
地域生活定着支援センター 5  
その他 10  
合計 403 (数字は令和4年度)

以来今日まで112年、社会経済情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救済」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人 恩賜 済生会となっている。  
職員数は全国で約6万4000人。

### 済生 [令和6年1月号]

THE NEWSLETTER of  
Social Welfare Organization  
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和6年1月10日発行  
通巻第1135号(第100巻第1号)

編集兼 炭谷 茂  
発行人  
発行所 社会福祉法人 済生会  
〒108-0073  
東京都港区三田1-4-28  
三田国際ビルディング21階  
TEL: 03-3454-3311(代)  
FAX: 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋  
東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人 済生会





住み慣れた地域で生活するために、  
 住民の「あし」と「元気」を守りたい！

第一目標金額

800万円

# 移動手段の少ないこの地域を支えるため、 リハビリテーション室へ新たな機器を導入 運転シミュレーター、電動車いす、 電動シニアカー導入にご寄付を

熊本県宇城市三角町の高齢化率は45%を超えています。地域の公共交通は少なく、車を持たない高齢者は生活に必要な「あし」がなく困っています。地域では電動車いすや電動シニアカーのレンタルも行っていますが、「運転が慣れずに怖くて乗れない」という方が多い現状です。また、怪我の手術や脳卒中後のリハビリ中の方で運転ができるか不安な方、高齢になり運転操作に対して不安がある方などの運転再開支援・運転操作評価も必要です。そのような方が安心して移動ができる街を目指す一つの解決策として、運転シミュレーターによる適切な評価と自動車運転が不可能だと判断された場合、それに代わる電動車いすや電動シニアカー普及のため新たな機器を導入することにいたしました。温かいご支援をよろしくお願いいたします。

## クラウドファンディングに挑戦

寄付  
 募集期間  
 いただく  
 ご寄付の  
 使い道

2023年 2024年  
 11月6日月 ~ 1月31日 水

運転シミュレーター、電動車いす、  
 電動シニアカーの導入費用



クラウドファンディングとは  
 インターネットを巡って活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を  
 応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。All inというルールで、目  
 標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

ご寄付・詳細は  
 WEBサイトまたは会計窓口へ

みすみ病院 レディーフォー

